

2017年4月3日

みずほディーラーズアイ (2017年4月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 108.00 ~ 115.00

国際為替部 為替営業第二チーム 佐藤 雅英

■ 先月の為替相場

3月のドル/円は、米利上げ期待を背景に115円台半ばまで上昇するも、トランプ大統領の政策実現能力に対する懐疑的な見方が台頭すると、月末にかけて110円台前半まで下落する展開となった。

月初は「堅調な展開」。112円台後半でオープンしたドル/円は、米2月ISM製造業景気指数の市場予想を上回る結果に114円台前半まで上昇。2日には、パウエルFRB理事が「3月利上げの根拠がそろってきた」と発言すると、114円台半ばまで続伸した。3日になると、イエレンFRB議長の「経済指標が想定通りであれば、3月利上げが適切となりそう」との利上げを支持する発言も伝わり、114円台後半まで上昇した。翌週6日には、113円台半ばまで下落する場面も見られたが、8日の米2月ADP雇用統計が良好な結果になると、114円台後半まで反発した。10日には、米2月雇用統計の発表を前にドル買いが進行し、月高値115.51円をつけた。しかし、同統計で時間当たり賃金の伸びが市場予想に届かなかったことで、利食い売りが優勢となり、114円台後半まで下落した。

月央は「上値の重い展開」。当初はFOMCへの期待を背景にドル円は底堅く推移したが、15日に開催されたFOMCで市場予想通り25bpの利上げが決定されるも、メンバーの政策金利見通し(ドットチャート)において2017年の利上げ回数の見通しが3回に据え置かれたことで、ドル売り優勢の展開に転じた。17日には米3月ミシガン大学消費者信頼感指数でインフレ見通しが前回値よりも低下したことも嫌気され、112円台半ばまで下落した。

月末にかけては「軟調な展開」。21日は、トランプ政権によるオバマケア代替法案の調整が難航しているとの見方から、大幅減税など財政拡大策の実現が難しいとの懸念を背景に111円台後半まで下落。23日にはオバマケア代替法案の下院採決への警戒感が強まる中、採決延期との報道を受けて110円台後半まで下落した。24日にオバマケア代替法案の撤回が報じられると、111円台を回復していたドル/円相場は、再び110円台後半まで急落。27日には、トランプ大統領の政策実現能力に対する懐疑的な見方から、月安値110.11円をつけた。ただ、30日に米10～12月期GDP(3次速報)が市場予想を上回ると、ドル買戻しの流れとなり、一時112円台を回復している。

■ 今月の見通し

今月のドル/円相場は、上値の重い展開を予想する。

先月にオバマケア代替法案の撤回を余儀なくされたことで、昨秋のトランプ氏当選以降高まった税制改革やインフラ投資などの実現性に懐疑的な見方が台頭している。

また、オバマケア代替法案を撤廃したことで、税制改革に係る財源の確保が困難となり、税制改革の規模が縮小を余儀なくされるとの懸念もある。トランプ大統領は、オバマケア代替法案撤廃後、速やかに税制改革に取り組むと宣言したものの、ムニューシン米財務長官は7月末の議会閉会までの成立に言及しており、成立には暫く時間を要しそうだ。このため、昨年11月以降高まった市場の期待を7月まで繋ぎ止めることができるかは疑問であり、議会運営の拙さが意識される局面では、ドル売り圧力がかかりそうだ。

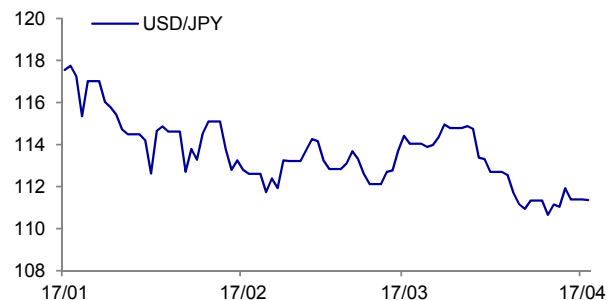
加えて、今月は半期に1度の為替政策報告書が議会に提出される。トランプ大統領は、選挙期間中に中国を為替操作国に認定すると言及しており、報告書の内容が注目される。仮に中国が為替操作国に認定されれば、日本の通貨・金融政策に対する警戒感に繋がるため、ドル/円の上値を押さえる展開が想定される。

そのほか、今月は日米経済対話が麻生財務相とペンス米副大統領のもとで実施される予定である。トランプ政権が、議会運営に行き詰まりを見せる中、政権として早期の結果を通商政策に求めるようであれば、日本に対する圧力がかかりやすい環境にあり、一定の警戒は必要だろう。

ただ、4月の新年度入り後は、本邦機関投資家による外債・外国株への投資フローが相応に出てくるとも想定され、ドル/円の下値をサポートすると考えられることから、ドル/円に売り圧力がかかる場面でも、下落スピードは緩やかとなろう。

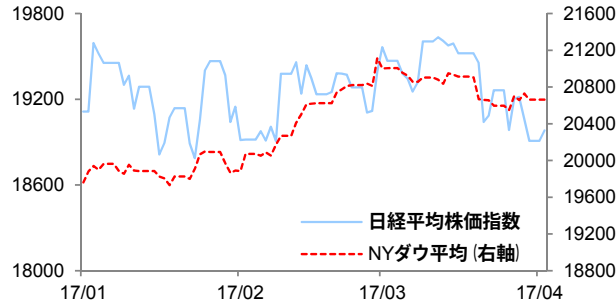
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	ISM製造業景況指数	2月	56.2	57.7	56.0
3/4	ISM非製造業景況指数	2月	56.5	57.6	56.5
3/10	非農業部門雇用者数変化	2月	200K	235K	227K
3/10	失業率	2月	4.7%	4.7%	4.8%
3/10	平均時給(前月比)	2月	0.3%	0.2%	0.1%
3/15	消費者物価指数(前年比)	2月	2.7%	2.7%	2.5%
3/15	小売売上高(前月比)	2月	0.1%	0.1%	0.4%
3/16	FOMC		0.25%利上	0.25%利上	据置
3/22	中古住宅販売件数	2月	5.55M	5.48M	5.69M
3/30	GDP(年率/前期比)	4Q	2.0%	2.1%	1.9%

カスタマーディーラーの相場観、注目点 (本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル・ブル (2名、109.00～116.50、中心109.50～116.25)

加藤	110.00 ～ 116.50	110円方向へ調整された折に本邦当局からコメントが聞こえなかったということ は米国に対する遠慮とも捉えられ、本邦が米国の立場を付度している以上、 米国も日米経済対話を推進する上で本邦に配慮すると思われ、二国間で為 替は問題視されないと見る。
下山	109.00 ～ 116.00	いわゆるトランプリスクは市場参加者の意識からひとまず外れてきている印象。 足許発表される米経済指標は強いものが目立つため、米ファンダメンタルズの 好調さを背景とした利上げ観測によってドル買いとなる展開を予想する。

■ドル・ベア (10名、107.00～114.00、中心107.50～114.00)

藤崎	107.00 ～ 113.00	米追加利上げタイミングの後ずれの可能性、トランプ政権の政策混迷の為、ド ル売り圧力が強まる展開を予想。4月は投資家による新年度の買いも予想され るが、期待剥落の影響が上回るのでは。
山下	107.00 ～ 113.00	オバマケア代替法案不成立による財源確保が困難な状況下、米政権が貿易 不均衡国に対し、今月に発表される米国の為替報告書で為替操作国認定と いう形で各国に厳しい対応を迫ってくる可能性が高い。ドル安は更に進行する と考える。
矢野	108.00 ～ 114.00	トランプ政権の財政運営に対する不透明感から、米金融政策(利上げ)ペース に対しても懐疑的な見方が徐々に強まり、ドルの上値を押える要因となろう。季 節要因としては新年度入り後の対外証券投資は期待されるものの、レンジを上 抜けすることは想定せず。
高田	108.00 ～ 114.00	足許FRBの要人発言を背景に米利上げ期待の高まりからドル円は下支えされ ているが、トランプ政権の掲げる政策運営能力を見極めるまでは追加のドル買 いは難しいであろう。むしろ政権の運営能力に疑義が生じれば米長期金利の 低下と共にドル円は下値を試すだろう。
佐藤	108.00 ～ 114.00	オバマケア代替法案の撤回を機にトランプ政権の政策実行能力に対する懐疑 的見方が台頭している。減税政策の規模が小粒に留まるとの懸念に加え、為 替報告書や日米経済対話において、為替相場について触れるリスクが警戒さ れることもドルの上値を押さえる要因となろう。
西島	107.00 ～ 114.00	「トランプ大統領が為替操作国にペナルティを課すことを検討している」などの 報道もある中、今月発表される米為替報告書内で中国と並んで日本も名指し 批判されることになれば、ドル円相場が急落するリスクは高い。トランプ政権へ の懐疑的な見方が強まっていることもあり、上値重い展開を予想する。
西谷	108.00 ～ 114.00	トランプ大統領の政策運営能力に対する不透明感が広がる中、ドルが積極的 に買われる展開は想定しにくい。加えて、今月は米為替報告書が発表され、 日米経済対話も始まる。米国からドル円の水準に関して何らかの牽制が入る 可能性もあり、下方向のリスクに警戒して臨みたい。
森谷	107.00 ～ 114.00	最近の米経済指標は底堅い数字が続いているが、FRBは3月に利上げに踏み 切ったばかりであり、今月中に次回利上げ期待が大きく盛り上がることは考え にくい。オバマケア代替法案を巡る一連の報道を受けて、トランプ政権に対し 警戒感が強く意識されている状況下、ドル安が進行する展開を予想する。
鶴田	108.00 ～ 114.00	注目材料は今月半ばに公表される為替報告書。「トランプ政権は為替操作国 に対して罰を課することを検討している」との報道が記憶に新しい中、内容次 第では同政権によるドル高是正を推進する動きに警戒感が一気に高まりそう だ。ドルが積極的に買われるイメージはなく基本的に上値の重い展開を予想 する。
大熊	107.00 ～ 114.00	米経済指標からは米景気の堅調さが窺われ、ほぼ完全雇用の水準に近づい ているが、トランプ政権の政策運営に対する不透明感がドルの重しとなってい る。政権人事も未だ混迷を極め、期待される税制改革やインフラ投資対策にと りかかるには時間がかかることが予想される為、上値重い推移が続くと思われ る。

ユーロ相場

予想レンジ:

EUR/USD 1.0500 ~ 1.0900
EUR/JPY 118.00 ~ 122.00

国際為替部 為替営業第二チーム 坂本 真史

■ 先月の為替相場

今月のユーロ相場は概ね堅調に推移するも、月末にかけて軟化した。月初、ユーロ/ドルは1.05台後半でオープン。トランプ米大統領の議会演説や米2月ISM製造業景気指数の良好な結果を受けて、1.05台前半まで下落。2日には月安値1.0495をつけた。3日、フランス大統領選の世論調査でマクロン候補(中道系独立候補)が初めてルペン候補(極右政党の国民戦線党首)を支持率で上回ったと報じられ、1.05台後半まで上昇。しかし、イエレンFRB議長が3月利上げを示唆したことで1.05台半ばまで下げた。

6日週は、1.06台前半でオープン。フランス大統領選にジユペ元首相が出馬しない意向を表明。ルペン候補当選への警戒感が強まったほか、8日に発表された米2月ADP雇用統計の良好な結果を受けて、1.05台前半まで下落。9日のECB理事会では金融政策が現状維持となるも、ドラギECB総裁の「インフレ率は依然として低いが成長のリスクバランスは改善した」との発言から1.06台前半まで急伸。10日、「ECB内で資産買い入れ終了前の利上げについて議論」と報じられ、4週間ぶり高値となる1.0699まで上昇した。

13日週は、1.06台後半でオープン。スметツ・ベルギー中銀総裁の「経済予測の上方修正は、金融政策の出口を意味するものではない」との発言に1.06台半ばで上値重く推移。14日、フランス大統領選のフィヨン候補が家族への公金不正支払問題で訴追されるとの報道を受け、ルペン候補当選への警戒感から1.06近辺まで下落。15日、FOMCで0.25%の利上げが決定されるもドットチャートは上方修正されず、1.07台前半まで急伸。オランダ総選挙では与党が勝利し、ノボトニー・オーストリア中銀総裁がECB緩和と縮小(テーパリング)を示唆すると、1.07台後半まで上昇した。

20日週は、1.07 台前半にてオープン。フランス大統領選のテレビ討論会後における世論調査で視聴者の38%が最も説得力のある候補者はマクロン候補と回答し、ルペン候補(33%)を上回ると、1.08 台前半まで上昇。22日は米国下院でのオバマケア代替法案採決への不透明感が強まる中、米長期金利低下し、1.0825 まで上昇した。

27日週は、1.08近辺でオープン。米金利が低位推移する中、月高値となる1.0906をつける。しかし、29日、「ECB3月会合のメッセージは読み込まれ過ぎている。あくまでテールリスクが後退したのみで出口への一步を示唆したものではない」と報じられたほか、EU離脱正式通知がなされた英国の離脱交渉が難航するとの見方が拉がる中、1.07台半ばまで下落。その後も弱含みに推移し1.06台半ばで越月した。

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は、底堅い展開を予想。

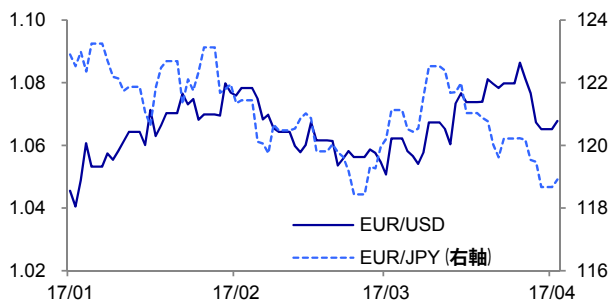
まず、急速に高まったECBのテーパリング観測は、上旬に調整がなされるものの、再び下旬にかけて再燃する可能性がある。先月はECBテーパリング観測の高まりがユーロ相場を牽引した印象だが、先月下旬に複数の関係筋情報として、当該観測は読み込まれ過ぎているとのコメントが報じられている。確かに、理事会後の記者会見でドラギ総裁はテールリスクが後退していることは強調しているものの、次の一手については言質を与えていない。足許では市場がテーパリングを織り込みに行き過ぎた感否めない。しかし、インフレ傾向にある物価動向を踏まえ、12月に期限を迎える拡大資産購入プログラム(APP)の出口戦略についてECBで議論が深められる可能性がある。また、「理事会は ECB の主要金利が長期間にわたって現水準もしくはそれを下回る水準で推移すると考えている」との表現を巡る議論がなされた今後の金利見通しについても、より深い議論が行われるだろう。ECB理事会のメンバー間で意見が分かれている印象であり、ECB高官からの発言次第では27日の理事会に向けて、下旬は再びテーパリング観測や金利見通し変更への期待が高まり、ユーロを上昇させる可能性は十分あると考えている。

次に、政治イベントとしては23日のフランス大統領選の一次投票が注目される。既に市場ではルペン候補が5月の決選投票に残るというシナリオを現実視している。しかし、足許の世論調査によってはマクロン候補が優勢との報道もあり、仮にマクロン候補が1位、ルペン候補が2位となったとしたら、市場はユーロ買いで反応しそうだ。投票先を定めていない有権者も多いと報じられているが、Brexit後の英国、トランプ大統領誕生後の米国、それぞれの動揺を踏まえてもお極右政党を率いるルペン氏に圧倒的な支持が集まるかは不透明だ。結果が出るまで予断を許さないものの、筆者は一段のユーロ下落というよりは、上述の結果によるユーロ反発を警戒したい。

更に米国に目を転じれば、4月中はFOMCが開催されず、次回FOMC会合は5月3日となる。FRB高官から今年の利上げは3~4回(あと2~3回)を想定するとのコメントが相次いでいるものの、前回3月会合で利上げを実施したばかりであり、連続利上げをするほどの理由は見当たらない。現在、金利先物市場における5月会合の利上げ確率は10%台と低位推移しているが、これが急速に高まることはないと考える。FOMCによる利上げペース加速によるユーロ下落は考え難い。以上を勘案し、今月のユーロ相場は総じて底堅い展開をメインシナリオとしたい。

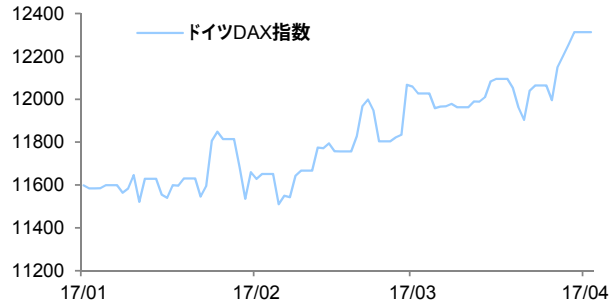
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	欧 製造業PMI	2月	55.5	55.4	55.4
3/1	独 製造業PMI	2月	57.0	56.8	56.8
3/2	欧 消費者物価指数(前年比)	2月	2.0%	2.0%	1.8%
3/7	欧 GDP(季調済・前期比/前年比)	4Q	0.4%/1.7%	0.4%/1.7%	0.4%/1.7%
3/9	欧 ECB理事会	-	-	-	-
3/14	独 消費者物価指数(前月比/前年比)確報	2月	0.6%/2.2%	0.6%/2.2%	0.6%/2.2%
3/14	独 ZEW調査(現状/期待)	3月	78.0/13.0	77.3/12.8	76.4/10.4
3/27	独 IFO企業景況感指数	3月	111.1	112.3	111.1
3/30	独 消費者物価指数(前月比/前年比)速報	3月	0.4%/1.8%	0.2%/1.6%	0.6%/2.2%

カスタマーディーラーの相場観、注目点 (本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (4名、1.0500～1.1200、中心1.0500～1.1050)

藤崎	1.0500 ～ 1.1200	仏大統領選が無難な結果となりそうなこと、ECBのテーバリング開始のタイミングが近いとの観測にユーロが上昇する展開を予想。市場のポジションは相当ユーロショートに傾いている可能性があり、レンジブレイクの可能性も。
矢野	1.0500 ～ 1.1000	ユーロ圏の景気回復によりECBによる利上げ開始が早まるとの期待感が強いこと、仏大統領選が波乱無く通過すれば買い安心感の一要因となること、またトランプ政権(特に財政面)に対する不透明感の高まりによるドル売り圧力等から、ユーロの堅調推移を予想。
佐藤	1.0500 ～ 1.1000	トランプ政権の政策実行能力に対する懐疑的な見方がユーロのサポート要因となりそう。また、足許のユーロ圏経済指標は良好であり、ECBによるテーバリングが連想されやすい。ユーロは底堅い展開を予想したい。
下山	1.0500 ～ 1.1100	積み上げられているユーロショートポジションが巻き戻される展開を予想。ECBにもテーバリング観測があるほか、仏大統領選挙でもルペン氏当選のシナリオは市場参加者の意識から外れてきている印象。ユーロは上目線で臨みたい。

■ ユーロ・ベア (8名、1.0000～1.0900、中心1.0300～1.0800)

加藤	1.0000 ～ 1.0800	ヨーロッパの政治情勢に関して楽観論が横行しており、それを前提とすればテーバリングの議論が持ち上がることは理解できる。但し、前提となる楽観論はいささか不安が残る。ベースとしてはヨーロッパは政治的に混迷が続くと考え
山下	1.0300 ～ 1.0800	仏大統領選は来月の決選投票に持ち込まれる可能性が高く、極右政党が減速しているものの、今月中は政治的リスクが残存する。今月から始まるECBの資産買い入れ減額もドラギ総裁はテーバリングと考えておらず、ユーロ買いに結びつくとは考えづらい。
高田	1.0300 ～ 1.0800	4月以降にフランスで控えるユーロ圏での政治的イベントを勘案すればユーロは積極的に買いにくい。トランプ政権に対する先行き不透明感から一時的にドル売りユーロ買いの場面もあるだろうが、一時的であろう。
西島	1.0300 ～ 1.0900	足許では欧州政治リスクに対する過度な警戒感はやや和らいでいるものの、仏大統領選挙に向けて再びムードは変調する可能性あり。事前調査はあてにならないことをBREXITや米大統領選で痛感させられた市場参加者が、楽観的な動きを拡大するとは考えにくく、ユーロ相場は次第に上値を抑えられそう。
西谷	1.0300 ～ 1.0900	トランプ政権に対する失望感が高まるタイミングでのドルロングポジションの巻き戻しには警戒すべきものの、今月は仏大統領選という政治リスクを抑えており、積極的にユーロロングを積上げるといった地合いになるとは考えにくい。ポジション調整が一旦落ち着けば、徐々に水準を切り下げる展開を予想する。
森谷	1.0300 ～ 1.0800	仏大統領選を抑える今月は世論調査の結果に一喜一憂する展開となろうが、重要イベントがあるという事実に対する警戒感からユーロは買われづらい展開を予想。ECBテーバリング観測はあるものの、今月については金融政策よりも政治イベントに焦点が当たりやすいだろう。
鶴田	1.0300 ～ 1.0800	注目の仏大統領選は来月の決選投票に持ち越される見込み。足許の世論調査ではマクロン氏勝利との見方が大勢となっているも、Brexitや米大統領選での結果を勘案すると楽観視する向きは限定的となるだろう。政治リスクが意識される中、ユーロ相場は上値の重い展開を予想する。
大熊	1.0300 ～ 1.0900	欧州の反EU機運は一時より弱まったが、ポピュリズムの台頭という政治リスクは残存している。4～5月に実施される仏大統領選では、中道のマクロン氏の当選が大方の見方であるものの、世論調査の信憑性に対する懸念が市場にはあり、ユーロを買い進めるには慎重にならざるを得ない状況は続くと思われる。

英ポンド相場

予想レンジ:

GBP/USD 1.2100 ~ 1.2700
GBP/JPY 134.00 ~ 143.00

欧州資金部 日比野 杏奈

■ 先月の為替相場

ポンド/ドルは1.23台後半で今月の取引を開始。1日の英2月製造業PMIが54.6と前回から1.1ポイント低下し、市場予想より弱い結果となった事を受けポンド売りとなり、加えてFRBの利上げ期待を受けたドル買いが相俟って1.22台後半まで下落。米利上げ期待を背景としたドル買いが続く中、3日に発表された英2月サービスPMIの弱い結果を受けポンドは1.22台前半まで続落したものの、その後は1.23ちょうど近辺まで反発。

週明け6日は1.23ちょうど付近で取引開始となり、米金利が上昇し続ける中で全般的なドル買いの流れとなり、また英予算案発表を控えポンドも弱含む中でポンド/ドルは7日までに1.21台半ばまで下落。同日に発表された英予算案では英2017年成長率予想が前年比+2.0%と、昨年11月時点の同+1.4%から大幅に上方修正されたことを受けポンドは買われ、ポンド/ドルは下げ止まった。9日のECB金融政策発表後のドラギ総裁の記者会見で「インフレは以前として低いが、成長へのリスクバランスは改善した」との発言を受けユーロポンドを含むユーロ全面高の展開となった。これを受けポンドへの下押し圧力は継続し、ドルが多少反落したにも関わらずポンド/ドルは1.21台後半で推移。翌日10日に発表された英1月貿易収支で赤字幅が市場予想を大幅に下回ったが、ポンド買いは限定的となり同水準でレンジ推移。

14日は欧州時間序盤のドル買いに押されポンド/ドルは1.21台半ばまで下落。15日には英中銀(BoE)の金融政策決定会合はタカ派色が強まる結果になるとの思惑などを背景に1.22台まで反発。翌16日、BoEは政策金利は市場予想通り0.25%に据え置いたものの、1名の利上げ支持者がいたことを受けポンドが大きく買い戻される展開となり、ポンド/ドルは1.23台半ばまで上昇。数日間は1.23台中心で推移し、20日に発表された英2月CPIが前年比+2.3%と、2013年9月以来の大幅な上昇となった事を好感しポンドは全般的に買われ、ポンド/ドルは1.24台後半まで上昇。翌日22日はドル買いを背景にポンド/ドルは1.24台前半まで緩んだものの、英議会付近でのテロ直後の瞬間的な下落の後には反発し、結局同日中に1.24台後半まで値を戻した。23日に発表された2月小売売上の強い結果を受けてポンド/ドルはさらに1.25台まで上昇。27日は米金利の低下とともにドルが全般的に軟調となり、ポンド/ドルは1.26ちょうど近辺まで上昇。

■ 今月の見通し

弊行ロンドン支店在勤エコノミストColin AsherよりBrexit交渉に関するコメント

Brexit交渉は、大きく分けて三段階の交渉ステージがある—①いわゆる「離婚交渉」、②「離婚後の関係」の交渉、③現況から今後の関係に移行するまでの移行ステージの交渉。この三つの交渉ステージの進め方でさえも、英国とEU側で意見が異なる。英国側は全ての交渉を最初から同時進行で進めたい一方で、EU側は「離婚交渉」にまずとりかかり、それが完了した時点で「離婚後の関係」の交渉、そしてそのステージが完了した時点で移行ステージの交渉を最後に進めたい意向。

「離婚協議」の主な論点は「お金」。タイトルマッチ前のボクサーかのように、両側は自身の言い分を声高に主張しているが、実際にお金の話をする時がついに間近に迫ってきている。おそらく、離婚協議ステージの早い段階で英国、EU側どちらの方が優勢かが明らかとなるだろう。一方、欧州改革センターによると、EUを離脱するための英国が支払うべき費用は230～750億ユーロと試算されている。EU離脱を問う国民投票前のキャンペーン中、離脱派が「EUを離脱すれば、毎週3.5億ポンドがEUからNHS(英国医療制度)に回せる」という主張を掲げていたのはそう記憶に遠くない。

英国は早い段階から集中して協議に臨むと予想されるが、EU側は少なくとも今年9月に行われる独総選挙過ぎまでは気長な姿勢で交渉をすると思われる。EUで行われる交渉で迅速に進む事は元々ない中、「英国側は2年間という期限に近づけば近づく程大きく妥協をするだろう」というEU側の思惑もあり、交渉開始後の進捗は比較的にスローペースとなるだろう。英国企業に1年間の準備期間を与えるため、英国側は2018年3月までには移行ステージの交渉を完了させたいとの希望をほのめかしている。一方で、前述の通りEU側が段階ごとにしか交渉を進めない姿勢を貫くと思われる。EU27か国、欧州委員会、欧州議会で交渉内容を50条トリガーから2年の交渉期限までに可決させるためには、2018年10月ごろにはすべての交渉が完了していないと間に合わないと思われる。交渉期間中も両者間の良好な関係が続けば交渉期間の延長は可能だと予想するが、2019年5月に行われる欧州議会選挙の時点で英国が依然としてEUメンバーとして残っていた場合、当選挙は多少ややこしい事になるか。

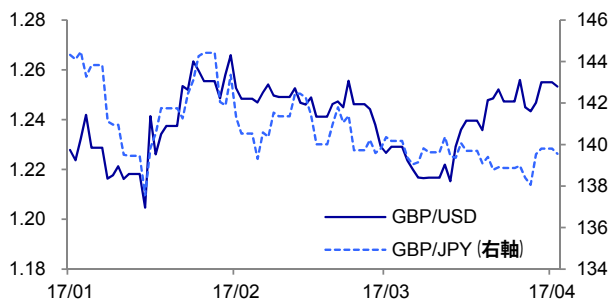
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』
ロンドンの桜シーズンは東京とほぼ同じで、今年は3月15日には市内各所でみる桜は大体3分咲きくらいで、3月25～26日の週末には満開の木が多かったので、東京とほぼ同じタイミングで桜が開花するイメージだろうか。ロンドンの主要な公園はきれいに手入れされた花壇が多く、花が咲き始めるととてもきれいな。Regents ParkやHyde Parkなどは公園の中に広域にわたる池があり、たくさん水鳥が住んでおり、週末や夕方におとずれると晴れやかな気持ちになれる。今くらいの時期になると日も長くなってくるので、公園でのランニングがとても気持ちいい季節。庭園でなくとも、ロンドンは野草(?)の花もきれいだと感じる。

ロンドンでの春最大のお花見イベントはChelsea Flower Showであろう。世界最大規模の当フラワーショーは英国王立園芸協会(RHS)が主催し、チェルシー王立病院で5月後半に行われる。最初の二日間はRHSメンバー限定、その後の木～土曜日は一般にも開放されており、アクセスはチケット制。一般向けの一泊券は£63、仕事後の午後5時半以降の入場券でも£35と、若干高い気もするが、一年に一回のイベントなので今年行ってみようと思う。

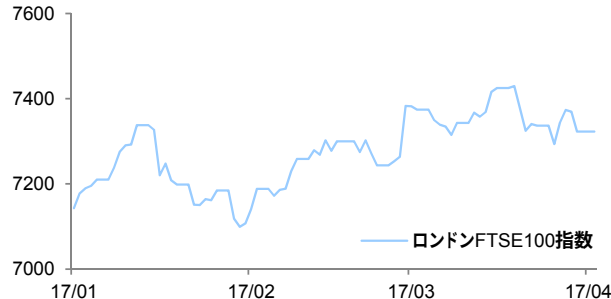
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	製造業PMI	2月	55.8	54.6	55.7
3/2	建設業PMI	2月	52.0	52.5	52.2
3/2	サービス業PMI	2月	54.1	53.3	54.5
3/10	鉱工業生産(前年比)	1月	3.2%	3.2%	4.3%
3/10	製造業生産(前年比)	1月	2.9%	2.7%	4.2%
3/15	ILO失業率	11-1月	4.8%	4.7%	4.8%
3/21	消費者物価指数(前年比)	1月	2.1%	2.3%	1.8%
3/23	小売売上高(含自動車/前年比)	2月	2.6%	3.7%	1.0%

豪ドル相場

予想レンジ:

AUD/USD 0.7400 ~ 0.7840
AUD/JPY 82.00 ~ 86.00

シドニー支店 山口 美紀

■ 先月の為替相場

3月の豪ドルは下に往って来い。

1日、豪ドルは0.76半ばでスタート。豪2016年10～12期国内総生産(GDP)成長率は前期比で+1.1%。年率では長期平均を下回ったものの、7～9月期の前年比+1.9%から回復し+2.4%となった。輸出と最終支出が拡大し、それぞれ成長率を+0.5ポイント押し上げたことが好調の主因となった。良好な豪GDPを受けて、豪ドルは0.77をつけた。翌日、豪1月貿易収支が予想(+38億豪ドル)を下回る貿易黒字額(+13.02億豪ドル)となり、豪ドルは0.76半ばに反落。更にハト派(金融引締消極派)で知られるパウエルFRB理事が米利上げに前向きな発言をしたことを受け、ドル買いが進行し豪ドルは0.75半ばまで急落した。3日、イエレンFRB議長も3月FOMCでの利上げを示唆する発言を行い、豪ドルは0.75半ばで揉み合いとなった。7日、豪州準備銀行(RBA)理事会にて、予想通り政策金利が史上最低の1.50%に据え置かれたため、豪ドルへの影響は限定的となった。翌日、米2月ADP雇用統計が予想(前月比+19万人)を上回る同+29.8万人となり、米ドル買いが進み、豪ドルは0.75前半に下落。9日には、商品価格(特に原油)の大幅な下落を受け、豪ドルは3月安値0.7491をつけた。

10日、良好な米2月雇用統計が発表されるも、前週に構築されたと見られるドル買いポジションの利益確定売りから、豪ドルは0.75台に反発。16日早朝、注目のFOMCにて予想通り25bpの利上げがされ、政策金利が0.75～1.00%となった。しかし、一部市場参加者が期待していた将来の利上げペース加速は示されず、ドル売りが進行。豪ドルは0.77台に急伸した。その後も米ドル売りの流れが継続し、豪ドルは0.77台での底堅い動きが続いた。

21日、豪ドルは約3か月ぶり高値となる0.7750を付けた。しかしその後、税制改革の入り口でもあるオバマケア代替法について、共和党内の一部の合意が得られず下院の採決が見送られると、リスクオフの動きが強まり、豪ドルは0.76前半に下落した。その後、豪ドルは0.76台を中心に横ばい推移して越月した。

■ 今月の見通し

「商品価格動向が豪ドルの鍵を握る。」

先月、FOMC(3月14日～15日)は波乱なく通過した。FOMCでは市場の予想通り利上げが実施されたが、注目が集まっていた先行きの利上げペースの見通しについては変更が無かった。利上げペース加速への警戒感が広がっていたこともあり、FOMC後に米長期債利回りは低下し、ドル安・米株高が進行した。また、米下院共和党は支持不足によりオバマケア代替法案の採決を断念した。次の重要課題(税制改革・インフラ投資・国境の壁など)に進むことを表明したが、米予算教書(3月16日)では減税策などの詳細が明らかにされず、トランプ大統領の経済政策(トランプノミクス)への期待を背景にドルは買いづらい状況にある。

前回のRBA理事会において、ロウRBA総裁は、世界的に企業景況感や消費者信頼感が改善しており、米国など先進各国で今後金融緩和の動きは少なくなるとの見方を示した。国内経済も商品価格の上昇で押し上げられ、国内の景況感と信頼感も長期平均を上回っていると評価した。一方で、住宅投資用の借り入れが増え、シドニーとメルボルンで住宅価格が急騰したことから、住宅市場に対する懸念が示された。RBAは過熱する住宅市場を背景に、更なる追加利下げは行いたいだろう。

先月の商品市場は大幅下落となった。NY原油先物(WTI)は50ドル割れと約4か月ぶり安値、鉄鉱石は90ドル割れとなっている。1月、2月の豪ドル上昇の主因となった商品価格は3月に入り上昇が一服しつつある。

以上のことを踏まえると、①米国はトランプ大統領の政策遂行能力の見極めが必要なものの、次回FOMCは5月初旬であり今月は金融政策維持、②RBAも金融政策維持の見込みであり、米国・豪州の金融政策は変更無し。しかし、ここ最近の商品価格下落が資源国通貨である豪ドルの重石となり、豪ドルはやや軟調な動きとなろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

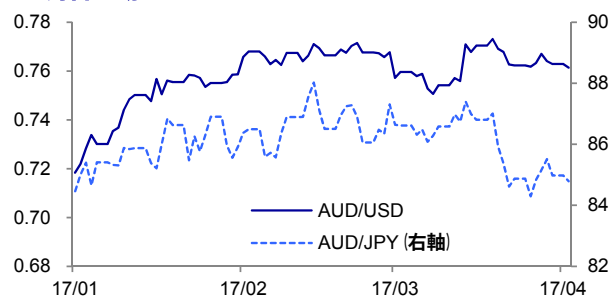
南半球に位置するオーストラリアは春ではなく、現在秋になろうとしています。丁度週末にサマータイムが終了し、一気に秋や冬モードです。日の出時間は遅くなり、気温も低くなり、ベッドから起き上がるのに時間がかかる時期に入りました。

掲題のテーマに戻ると、オーストラリアの春にはジャカラランタが咲きます。薄い紫色の花が木いっぱい咲き、街路はパープル色に染まります。キレイな花や木ばかりを見ていると、足元を取られ転ぶ可能性があることには注意です。

さて今回は、オーストラリアのお花見(≒ピクニック)について書きたいと思います。お花見と言えば、花より団子！オーストラリアのピクニック時のフードについて紹介します。王道はオージーバービー(BBQ)！オーストラリアでは多くのピクニックエリアや公園にBBQコンロが設置されているため、簡単にBBQを楽しむことができます。BBQの香りに魅了されるのは人間だけではなく、余所見をしていると、肉食の鳥、クッカバラ(ワライカワセミ)がBBQのステーキを発見し食べてしまいますので、注意が必要です。また、他民族国家のオーストラリアでは寿司ロール、中華、フィッシュアンドチップス、タイ料理、インド料理など、好みに合わせて色々なものをテイクアウトできます。最近はウーバーデリバリー(ウーバー宅配便)も出来るようになり、便利な世の中です。将来的にはドローンデリバリー(ドローン宅配便)も加わり、何処でも何でもゲットできそうですね。掴めないのはお客さまの心だけ。。。

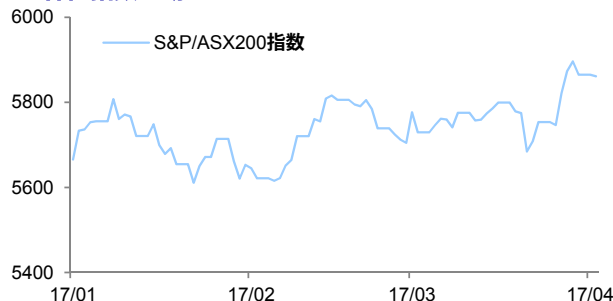
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	GDP[前期比/前年比]	10-12月	+0.8/+2.0%	+1.1/+2.4%	▲0.5/+1.9%
3/2	貿易収支	1月	AS\$3800M	AS\$ 1302M	AS\$3344M
3/2	住宅許可件数[前月比/前年比]	1月	▲0.5/▲11.6%	+1.8/▲12%	▲2.5/▲11.7%
3/6	小売売上高[前月比]	1月	0.4%	0.4%	▲0.1%
3/7	RBA政策金利		1.5%	1.5%	1.5%
3/10	住宅ローン申請件数[前月比]	1月	▲1.0%	0.5%	0.2%
3/16	雇用者数	2月	16.0千人	▲6.4千人	13.5千人
3/16	失業率	2月	5.7%	5.9%	5.7%
3/21	RBA議事録				

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3150 ~ 1.3550
CAD/JPY 82.00 ~ 87.38

米州資金部 光野 由貴宏

■ 先月の為替相場

先月のドル/カナダドルは往って来いの展開。

月初のドル/カナダドルは1.3314でオープンした。FRB要人による3月FOMCでの利上げを示唆するコメントが相次ぎ、3月FOMCにおける利上げを織り込む動きが急激に強まったことから、ドル全面高となり、ドル/カナダドルは1.3437まで上昇した。米国石油掘削装置(リグ)稼働数が増加し続けていることや、米国の原油在庫が統計開始以来の最高記録を更新したことを背景に原油の需給改善期待が後退し、WTI原油先物は昨年12月以来となる50ドル割れとなったことを受けドル/カナダドルは月高値の1.3535まで上昇した。

月中は、3月FOMCがタカ派な内容になるとの期待感や、3月OPEC月報においてサウジアラビアが2月に原油生産量を増やしていたことが明らかになったことを受け、減産合意の遵守に懐疑的な見方が強まり、WTI原油先物が47.72ドルまで下落する動きに、ドル/カナダドルは1.34台半ばで底堅く推移した。3月15日のFOMCでは、FRBメンバーによる政策金利予測(ドットチャート)において、2017年利上げ予測回数が3回に据え置きとなり、4回を期待していた一部市場参加者による失望売り(ドル売り)に1.3277まで急落した。

月末は主に1.33台半ばを挟んだレンジ内の値動きに終始。21日に発表されたカナダ1月小売売上高が予想を大きく上回ったことからカナダドル買いが強まり、ドル/カナダドルは月安値となる1.3265まで下落。しかし市場の注目がオバマケア代替法案の下院議会採決に集まる中、この水準では下げ渋った。23日の本会議採決を控えて、採決をめぐる報道に振られる展開となり、一時1.3408まで上昇する局面も見られた。24日に予定から1日延期されて実施された本議会採決では、結果的に可決に十分な支持票を集めることができないとの見込みから事実上の廃案が決定し、発表直後はドル売りがみられた。しかしその後は、トランプ政権が今後は税制改革に専念するとのスタンスを表明したことを受け、市場では大型減税策に期待する向きもあり、ドル売りは限定的となった。31日発表されたカナダ1月GDP(前月比)が予想を上回ったことからカナダドル買いが強まり、1.3316で越月した。

■ 今月の見通し

昨年9月中旬以来、ドル/カナダドルは1.30から1.36のレンジ内で推移しており、今月も引き続き同じレンジ内での推移を予想。今般のオバマケア代替法案の事実上廃案は、トランプ政権にとっても政策遂行能力やリーダーシップの欠如を露呈する形となった。米大統領選直後から始まったトランプラリーがトランプ大統領の経済政策(トランプノミクス)への期待感を背景としたものであったことから、今回の一件を受け徐々にこういった期待は剥落していくことが予想され、それとともにドル売りも強まっていくことだろう。そもそも、これまで7年間議論をし、共和党内支持率が75%に達していたオバマケア代替法案でさえ法案化に失敗している状況下、もっと複雑且つ支持率も低い大型減税策やインフラ投資策について、法案化できるかという点は甚だ疑問である。今までのように口先だけの空約束では市場は反応しにくくなっているであろうことに鑑みても、大型減税もインフラ投資も法案が具現化する前のドル買いは限定的となるだろう。一方、夏場のドライブシーズンに伴うガソリン需要拡大が意識され、原油相場が下支えされることが予想されるものの、OPEC加盟国/非加盟国の減産遵守状況の足並みが足許は揃っていないことや、原油在庫が増加傾向であることは、引き続き下押し材料である。当面の原油相場は上値重い展開が予想されることから、結果的に資源国通貨であるカナダドルも上値重い展開を予想せざるを得ない。ドル、カナダドルともにダウンサイドリスクがある中、再び過去6か月のレンジが意識され、今月のドル/カナダドルは1.31~1.35での推移を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行事事情』

日本人にとって、花粉症の次に春の訪れを何よりも感じさせてくれる桜ですが、トロントにも日本の桜が見れるスポットが幾つかあります。

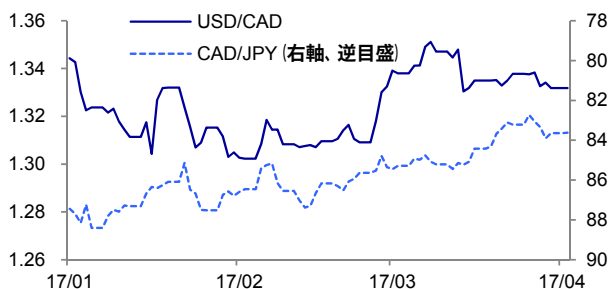
一番有名なのは、ハイパークというトロント市内にある大きな公園の桜です。この桜はオンタリオ湖を臨む丘に植えられおり、数も多く、満開の時はかなり見応えがあります。この公園の桜の多くは日本から寄贈されたもので、1959年に東京都民を代表して親善大使である萩原徹氏からトロント市へ送られた2000本のソメイヨシノ、2001年に同市とトロント日本領事館による『桜プロジェクト』で送られたサトザクラ34本などがあります。

5月の開花の時期には地元の人など大勢の人が訪れ、老若男女問わず花見を楽しみます。私も4年位前に一度行ったのですが、桜をバックに結婚式の写真を撮るカップルが沢山いたのがとても印象的でした。その時の記憶では桜の下でお弁当を広げて楽しむ人は一人も居なかったように思うのですが…こちらの公園はピクニックが可能なエリアがちゃんと決まっているので、桜の木の周辺はアウト、ということでしょう。美しい桜を眺めながらおにぎりを食べられないのは少し残念ですが、より多くの人に桜を楽しんでもらうためにはこうした規制がちゃんとあるのはいいことだと思います。

さてこのハイパーク、トロント一の桜の名所だけあって開花の時期(特に週末)になると激混みになります。桜は見たいけど混んでいるのが嫌!という人はフェリーに乗ってトロント島(センターアイランド)へと足を運んではいかがでしょうか? 季節になると30本ほどの日本桜がひっそりと美しく咲くそうです。トロント島はこれからの時期、サイクリングにもいいですし、綺麗なビーチもあります。桜見物を理由に行ってみるのも良いかもしれません。(那須 絃子)

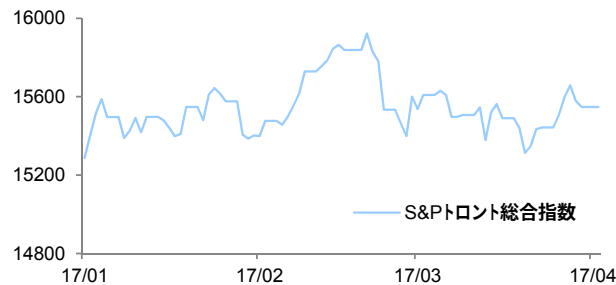
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	マクナイト カガ 製造業PMI	2月	-	54.7	53.5
3/1	カガ 銀行翌日物貸出金利		0.50%	0.50%	0.50%
3/2	GDP(前月比)	12月	0.30%	0.30%	0.5%r
3/8	住宅着工件数	2月	200.0k	210.2k	208.9kr
3/10	失業率	2月	6.80%	6.60%	6.80%
3/10	雇用対変化率	2月	-5.0k	15.3k	48.3k
3/15	トロント7年物金利(前月比)	2月	--	5.20%	-1.30%
3/21	小売売上高(前月比)	1月	1.50%	2.20%	-0.50%
3/24	消費者物価指数	2月	--	129.7	129.5
3/31	GDP(前月比)	1月	0.30%	0.60%	0.30%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 29.80 ~ 30.80
TWD/JPY 3.52 ~ 3.73

台北資金室 三浦 勇二

■ 先月の為替相場

3月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高。

月初、30.690でオープンしたドル/台湾ドルは、FRB高官のタカ派的な発言を受け、3月FOMCでの利上げ期待が急速に高まり、ドル買いが先行。2/28NY時間のトランプ米大統領の就任後初となる議会演説は、具体的な政策内容には触れられなかったものの、冷静な内容となったことが好感され、演説後もドル高地合いが継続。加えて、台湾の株式市場が利益確定売りで軟調に推移し、外国人投資家が株式売り越しに回ったこともドル高台湾ドル安要因となった。一方、31ちょうどを上回る水準へ上昇する場面では、輸出企業のドル売り台湾ドル買いフローが増加し、上値が押さえられた。

その後、3/8に発表された米2月ADP雇用統計が市場予想を上回る強い結果となると、FRBによる利上げペース加速への期待が広がったことや、米2月雇用統計を前に株式市場がポジション調整の売りで軟調に推移したこと、再びドル買い基調となり、31台を回復。一時31.130まで上昇するも、雇用統計後はドル下落を受けて、ドル/台湾ドルも軟化。

3/14～15にかけて開催されたFOMCでは、FF金利誘導目標の25bpの引き上げが決定。FOMCメンバーの2017年、2018年の政策金利見通し(ドットチャート)の中央値は前回と変わらずで、概ね市場予想通りの結果となった。FOMC後は、材料出尽くしからドルが急落し、翌3/16の台湾市場では、ドル/台湾ドルは一時30.564まで下落する展開となった。その後も米国の長期インフレ期待の低下などからドル売り優勢の展開が続き、30.5割れる場面も見られた。

月末にかけても、オバマケア代替法案の採決が撤回され、トランプ政権の景気刺激策に対する期待感が後退する中、ドルは軟調な地合いが継続。3/28には2014年9月以来の安値となる30.115をつける場面も見られた。

■ 今月の見通し

4月のドル/台湾ドル相場は、ドル安台湾ドル高の継続を見込む。

3月に発表された台湾の経済指標を見ると、2月の輸出額が前年比+27.7%と5か月連続の増加。前年2月が春節の影響により、比較対象となるデータが小さかったことが伸びを押し上げているものの、主要輸出品である電子部品を中心に好調さが維持されている。輸出受注額についても、同+22.0%と7か月連続の増加。米国、中国からの受注増加が大きく寄与しており、台湾経済部は世界的な景気の回復に伴い、受注額は当面増加が続くとの楽観的な見通しを示している。なお、3/23に台湾中央銀行(CBC)は四半期に一度の金融政策決定会合を開催。政策金利は1.375%で現状維持となった。

4月の注目材料は、トランプ政権の動向と、欧州の政治リスクか。トランプ政権の景気刺激策については、共和党内の調整が難航するとの見方も広がっており、その実行能力について懸念され始めている。米国の利上げペース加速への期待感も後退しつつある中、保護主義姿勢強化を受けたドル安圧力の影響が強まりやすいか。米通商代表部外国貿易障壁報告、米財務省為替報告の公表も控え、政権側の通商政策に関する発言には特に注目が集まる。

一方、4/23に初回投票が行われる仏大統領選に向けては、欧州の政治リスクが意識されやすい。先行き不透明感から、株式市場で調整が入れば、外国人投資家の資金流出に伴い、台湾ドル安となりやすい。なお、台湾の外国人投資家は、1月から3月にかけて、大幅な買い越しを続けており、3か月間での買い越し額は合計1,622億台湾ドルに上る(3/28時点)。利益確定のタイミングを待っている投資家が相応にいるものと考えられ、3月上旬にも見られたような、台湾ドル高の巻き戻しには注意が必要か。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』
台湾は日本よりも温暖な気候のため、桜は1月から3月にかけて見ごろを迎えます。台北の近くでは陽明山という場所が桜の名所として有名で、山桜やソメイヨシノなどを楽しむことができます。また、陽明山では、桜の見ごろが終わる3月下旬から海芋(カラー)という花が咲き始め、こちらも多くの観光客が見に訪れます。竹子湖カラーフェスティバルといったイベントには毎年100万人以上が訪れるようです。

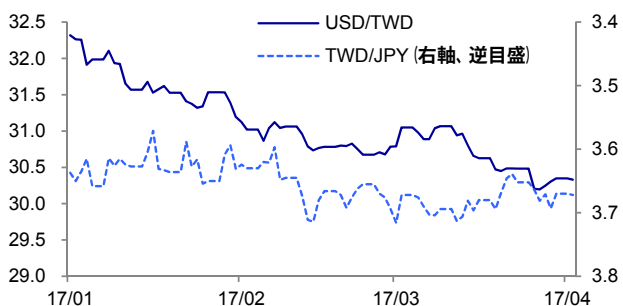
そのほか、4月中旬から5月上旬にかけては苗栗での油桐花も有名です。真っ白い花が散る様子が雪のようできれいとも人気を集めております。

花見以外の行楽行事としては、イチゴ狩りが人気です。3月が最盛期ですが、1月から5月にかけて、日本に比べると長い期間楽しめるのが特徴です。台湾でのイチゴの産地として有名なのが苗栗の大湖という場所。収穫量だけでなく、品質も高いことで有名です。

また、若者の間では、毎年、墾丁で行われる春吶(Spring Scream)が人気を集めております。多くの人気歌手が出演するロックフェスティバルで、墾丁は台湾南端に位置し、都市部からはかなり離れている場所ですが、毎年多くの若者が集まります。

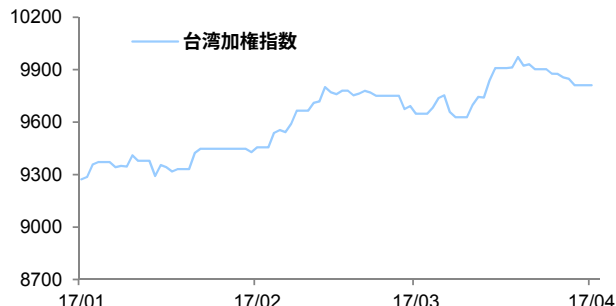
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/7	CPI (前年比)	2月	0.70%	-0.04%	2.25%
3/7	卸売物価指数 (前年比)	2月	3.00%	2.19%	2.71%
3/7	貿易収支	2月	3.80B	3.36B	3.49B
3/7	輸出 (前年比)	2月	16.40%	27.70%	7.00%
3/7	輸入 (前年比)	2月	24.90%	42.10%	8.60%
3/20	輸出受注 (前年比)	2月	16.10%	22.00%	5.20%
3/22	失業率	2月	3.82%	3.83%	3.84%
3/23	鉱工業生産 (前年比)	2月	10.00%	10.64%	2.77%
3/23	政策金利	Q1	1.375%	1.375%	1.375%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW	1090	~	1150
KRW/JPY	9.71	~	10.31
JPY/KRW	9.70	~	10.30

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 山口 智裕

■ 先月の為替相場

3月のドル/ウォンは米雇用統計に下落し、FOMC後は下落幅が拡大する展開

月初旬のドル/ウォンは上昇。前月末におけるトランプ大統領の議会演説は現実的な内容となり、無難に通過。しかし、韓国が祝日であった1日のアジア時間早朝におけるダドリーNY連銀総裁のタカ派的な発言を受けて、米国の3月利上げ可能性が高まる中、祝日明け2日のドル/ウォンは前月末比+11.3ウォン安の1142で取引を開始。その後も、FRBのパウエル理事、イエレン議長の発言で米3月利上げ観測が一段と高まる中、ドル/ウォンが上げ幅を拡大。8日の米2月ADP雇用統計が市場予想を大幅に上回ったことで米雇用統計で良好な数字が出るのではとの思惑が広がったことや、朴クネ大統領の弾劾裁判を控えて、10日のドル/ウォンは月高値となる前月末比+30.5ウォン安の1161.2まで上昇した。同日、朴クネ大統領の弾劾裁判で罷免が決定された。

月中旬以降のドル/ウォンは大幅下落。米2月雇用統計が一部の期待ほど良好な結果とならなかったことから、ドルが下落。また、韓国の政治不透明感がやや後退したことを受けて、韓国への資金流入が活発化し、週明け13日のドル/ウォンは上げ幅を縮小。注目されていた15日のFOMCでは、市場予想通り政策金利を+25bp引上げ0.75%~1.00%とすることが決定されたが、メンバーの政策金利見通し(ドットチャート)では、2017年の利上げ回数の中央値は3回と、一部市場参加者の思惑ほど上昇しなかった。また、オランダの下院選挙では、与党自由民主党が最大議席を獲得し、極右党が世論調査ほど議席を獲得できなかった。これらを受けて、ドル/ウォンは下げ幅を拡大。その後も、17~18日のG20では、「あらゆる形態の保護主義について抵抗する」との文言が削除。20日には米格付機関S&Pがビデオリサーチにて台湾と韓国が「為替操作」の可能性が高いと指摘。24日には、オバマケア改廃案の下院採決を断念したことを受けて、トランプ大統領の経済政策への期待が後退する中、ドル/ウォンは一段と下げ幅を拡大。28日には月安値となる1110.5まで下落し、前月末比▲12.3ウォン高の1118.4で引けた。

■ 今月の見通し

4月のドル/ウォンは引続き上値の重い展開を予想する。韓国では政治不透明感が後退しており、依然資金流入の余地がある。大統領最有力候補である文在寅(ムン・ジェイン)氏は親中、親北朝鮮の候補として知られており、短期的には地上配備型ミサイル迎撃システム(THAAD)配備に関わる中国の強硬姿勢や北朝鮮問題が和らぐ可能性もある。そのほか、4月中旬から5月頭は資金流入を背景に例年ウォンが堅調に推移する季節性がある。

ただし、4月15日の為替報告書で為替操作国に指定されない場合、これまでの懸念事項が剥落し、一旦ドル/ウォンが上昇する可能性や、韓国の政治不安に再度焦点が当たる場合は、堅調に推移する可能性もある。

3月10日に行われた朴クネ大統領の弾劾裁判では、8:0で罷免が決定された。事前予想では主だった証拠もない中で、一部罷免には値しないとする裁判官がでるのではとの観測があったものの、民意を背景に全会一致での罷免となった。これにより、5月9日に大統領選が行うことが決定。現在、各党において、予備選が実施されている。

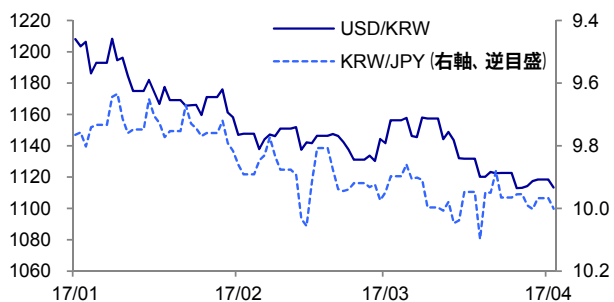
(予備選前で党代表となるか未確定ではあるが、)ともに民主党の文在寅(ムン・ジェイン)氏が現在30%超の支持率を維持し、国民の党の安哲秀(アン・チョルス)氏や自由韓国党(旧セヌリ党)の洪準杓(ホン・ジュンピョ)氏と20%程度の差をつけている。

ムンジェイン氏は公約をまだ出していないが、反日、親中、親北朝鮮として知られており、過去の発言や前回大統領選の公約を基に主な意見をまとめると以下の通り。北朝鮮が軍事力を拡大する中では、通常、保守系の候補者が支持率を伸ばしてきたが、今回は反朴クネと格差縮小が前面に出ている。大統領選を通じてどこまで革新派、保守派に票が集まるかには注目したい。

- ・韓国内の財閥解体
- ・公務員の131万人増
- ・労組の強化
- ・THAAD、日韓慰安婦問題合意、日韓軍事情報包括保護協定の見直し
- ・(北朝鮮)開城工業団地の再開、韓国米と北朝鮮のレアアースの貿易開始
- ・“強制徴用労働者”に関する日本への賠償請求

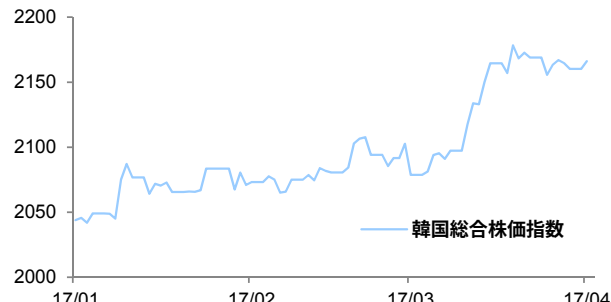
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』
基本的に日本を模倣した習慣が多い当地において、当然お花見の習慣もあります。

お花見は、韓国語では꽃놀이(コンノリ、直訳すると花遊び)、꽃구경(コクギョン、花見物)と呼ばれ、特に桜(벚)を見るものについては、一般的に벚꽃놀이(ボコンノリ)と呼ばれています。

通常4月1週~2週当たりの桜が咲く頃には、各地で벚꽃 축제(ボググチュッチェ、桜祭り)が開催され、ソウル市内ではヨイドやソウル大公園などが有名で、今年のヨイド桜祭りは4/1~4/9で開催されます。それなりに混雑していますが、日本のように場所取りをドンちゃん騒ぎをするわけではなく、俳優、歌手、コメディアンなどの公演が開催されたり、歩きながら花や出店を楽しむ形なので、カップルで楽しんでいる人も多いです。ただ、この時期はPM2.5や黄砂で空気が淀んでいることが多いため、大気汚染の状況をチェックしてから出歩かれることをお勧めします。

■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	貿易収支	2月	\$4850m	\$7223m	\$3196m
3/2	鉱工業生産(前年比)	1月	2.1%	1.7%	4.3%
3/2	日経韓国製造業PMI	2月	--	49.2	49.0
3/3	消費者物価指数(前年比)	2月	1.8%	1.9%	2.0%
3/15	失業率(季調済)	2月	3.9%	4.0%	3.6%
3/21	輸出 20日間 前年比	3月	--	14.8%	26.2%
3/24	消費者信頼感	3月	--	96.7	94.4
3/28	GDP(季調済/前期比)	4Q F	0.4%	0.5%	0.4%
3/28	GDP(前年比)	4Q F	2.3%	2.4%	2.3%
3/31	鉱工業生産(前年比)	2月	7.2%	6.6%	1.7%

香港ドル相場

予想レンジ:

USD/HKD 7.7600 ~ 7.7750
HKD/JPY 13.90 ~ 14.40

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【3月の香港ドル直物相場】

ドル／香港ドルはドル高の流れに追隨する展開となり、3月半ばには一時7.77を超える水準まで香港ドル安が進行した。3月15日のFOMCでは市場予想通り0.25%の利上げが実施された一方で、2017年の政策金利見通し(ドットチャート)については年3回(今回利上げを含む)と上方修正はなかったことから、ドルは急落。斯かる中、ドル／香港ドルは一時的に7.76水準を割り込む局面も見られたが、足許7.767水準で落ち着きを見せている。26日に実施された香港行政長官選挙では、大きな波乱はなく、林鄭新行政長官は既存の香港政府のスタンスを踏襲し、ドルとのペッグ制を維持すると見込まれている。香港ドル金利とドル金利の金利差は拡大しており、ドル／香港ドルフォワード1か月物及び3か月物は、▲62ポイント及び▲153ポイントと約9年ぶりの水準まで低下した。

【3月の香港ドル金利市場】

FRBによる利上げにもかかわらず、香港ドル金利は流動性が相対的に潤沢であることから低下した。インターバンク市場の流動性を図る指標である香港通貨管理局(HKMA)の当座預金残高は、6か月連続で2,600億香港ドル程度と高水準になった。15日のFOMCにかけて、LIBOR3か月物は2月末の1.06%付近から1.15%付近まで徐々に上昇したのに対し、HIBOR3か月物は0.94%付近までじりじりと低下し、HIBORとLIBORの3か月物の金利差は0.2%程度まで拡大している。長期ゾーンについては、ドルとのペッグ制の中、中長期的に香港ドル金利が米国の利上げペースに追隨していくとの見方を反映し、3年物及び5年物の香港ドル金利とドル金利はほぼ同水準となっている。ドル香港ドルの通貨ベースは、海外勢による債券発行に係るヘッジフローからマイナス幅を拡大しており、10年のドル香港ドルの通貨ベースは2月末水準から3月半ばにかけて0.10%程度マイナス幅が拡大した。

【3月の香港株式市場】

ハンセン指数は堅調な中国株式の流れも相俟って、19か月ぶりに高値を更新し一時24,657を超える水準まで上昇した。ドル安の継続やFRBの利上げペース加速に対する過度な期待感の後退等を背景に、香港市場からの資金流出懸念が和らいだ格好。香港における住宅価格の上昇や堅調な中国ファンダメンタルズが関連セクターを押し上げた一方で、米国株の下落に伴い利益確定売り等のフローも入り足許は値を下げている。

■ 今月の見通し

【4月の香港ドル直物相場】

FRBの利上げペース加速に対する過度な期待感の後退や堅調な中国ファンダメンタルズ等を背景に、現状香港からの大幅な資金流出は想定しづらい。ドル高の衣服に伴って、ドル／香港ドルの取引レンジは7.760から7.775を想定する。26日に実施された香港行政長官選挙については大きな波乱はなく、現行のドルペッグ制の踏襲が見込まれることから、市場への影響は限定的となろう。香港ドル金利及びドル金利の金利差拡大により、ドル／香港ドルフォワードは目先低水準での推移を見込む。安定的な香港株式市場と堅調な不動産市況が、香港市場への資金流入を下支えするだろう。

【4月の香港ドル金利市場】

足許香港ドル市場の流動性は潤沢な状況が継続しており、FRBによる利上げ実施にもかかわらず、各金融機関は香港ドル金利の引き上げを急がないと見られ、香港ドル短期金利は低位安定を見込む。したがって、香港ドル金利とドル金利の金利差は拡大した状況が継続するだろう。香港市場におけるドル資金調達コストの低下を背景に、債券発行に係るヘッジフローからドル香港ドルの通貨ベースのマイナス幅が更に拡大する局面も想定される。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

香港における初春のメインイベントと言えは、旧正月(春節)が有名です。

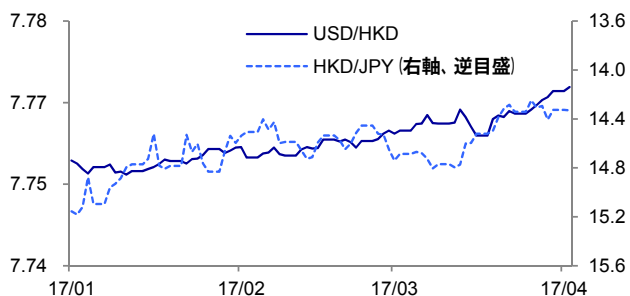
春節期間中は、幸運や仕事があまくいように、中国では縁起色の赤を街中の至る所でよく目にします。公共の場所でも、人々は伝統的な音楽を奏でながら民謡を歌い、街全体が一体となってお祭り騒ぎをするのです。もちろん、日本のお年玉に相当する”Red Pocket”の配布もあります。

また、春節に食べる料理の名前には特別な意味があるものがあります。例えば、”Tangyuan”(日本で言うお雑煮のようなもの)は、同じ読み方で”団結・調和”を意味する言葉になったりします。

一方で、イースター等の長い休暇においては香港人の多くはあまり遠出をしません。このような休暇のコンセプトは”家族休暇”でして、概して故郷に帰省し家族や親戚等が一堂に会して、全員で食事をとりながらゆったりとした時間を過ごすというのが慣習のようです。

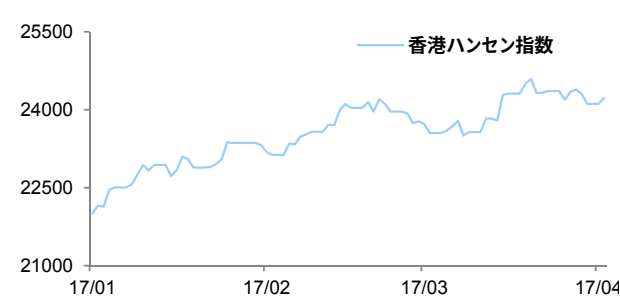
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	小売売上高 (価格、前年比)	1月	-1.0%	-0.90%	-2.90%
3/2	小売売上高 (数量、前年比)	1月	-2.0%	-1.40%	-2.90%
3/3	日経香港PMI	2月	-	49.6	49.9
3/7	外貨準備高	2月	-	\$390.5b	\$391.5b
3/16	失業率 (季調済)	2月	3.30%	3.30%	3.30%
3/17	総合利率	2月	-	0.32%	0.32%
3/21	CPIコンボジット (前年比)	2月	0.70%	-0.10%	1.30%
3/27	輸出 (前年比)	2月	15.70%	18.20%	-1.20%
3/27	輸入 (前年比)	2月	16.40%	25.40%	-2.70%
3/27	貿易収支 (HKD)	2月	-39.4b	-56.3b	-12.3b

中国人民幣相場

予想レンジ:

USD/CNY 6.7500 ~ 7.0500
 CNY/JPY 15.32 ~ 17.33
 100JPY/CNY 5.8700 ~ 6.5274

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 上城戸 千尋

■ 先月の為替相場

【為替相場】

3月のドル/人民幣相場は月半ばまではドル高人民幣安方向へ進むも、その後は人民幣高方向へ戻す展開。月初、ドル/人民幣の実勢相場は6.87台半ばでオープン。2月28日(中国時間3月1日)に行われたトランプ大統領の議会演説が好感されたこと、FOMCメンバーから3月利上げを支持する発言が相次いだことなどから、月初からドル高人民幣安方向へ推移。5日から15日まで行われた、経済政策に係る各種目標値や政権運営方針が決定される第12期全国人民代表大会(全人代)第5回会議期間中は、人民幣為替相場を安定させたいとの当局の意向が相場に反映されると見られていたものの、一時6.92付近までドル高人民幣安となった。なお、全人代ではGDP目標成長率が6.5%前後と前年目標の6.5~7.0%から引き下げられたが、事前予想通りであり相場への影響は限定的となった。15日に米FOMCが行われ、市場予想通り0.25%の利上げが実施された。しかし、注目されていた政策委員の金利見通しは引き上げられず、一部の市場参加者の期待が剥落しドルが下落。それに伴い翌16日のドル/人民幣は前日比約200pipsドル安人民幣高となるも、その後は方向感無く推移。月後半には実需の大ロドル売り人民幣買いフローが入ったことをきっかけに人民幣高方向へ推移。加えて、当初23日に予定されていたオバマケア代替法案の採決が延期され、最終的に採決を断念することとなり、トランプ政権の政策実行能力が疑問視されドルは下落。ドル/人民幣も6.86台半ばまでドル安人民幣高が進んだ。月央にかけて進んだ人民幣安を月末にかけて打ち消すような推移となった。

【金利相場】

3月は期末月であることから、月越えの資金調達ニーズが強く、流動性がタイトとなる中、金利は前月から引き続きカーブ全般で上昇。月初、連日ネット資金吸収となったが、月末を越えたことから資金需要が落ち着き、若干金利は低下する場面も見られた。しかし、米利上げ決定の翌日16日には、人民銀行(PBOC)が実施した公開市場操作のリバースレポ、中期貸出ファシリティ(MLF)、常設貸出ファシリティ(SLF)の金利が引き上げられ、金利はカーブ全般で一段と上昇。下旬には一部の中小金融機関が銀行間市場で借入入れを返済できなかったことからPBOCが臨時資金供給を行ったとの噂が流れるなど、月末にかけて流動性はタイトな状況が継続した。

■ 今月の見通し

【為替相場】

4月のドル/人民幣相場は、上旬はドル高人民幣安へは推移しづらく、下旬は若干不安定な値動きになると予想。米財務省が15日までに為替政策報告書を議会に提出する。今回、中国の為替操作国認定に関わる本報告書がトランプ大統領就任後に初めて公表されることから、その記載内容について注目が集まる。現状、中国は本報告書における監視リスト入りする条件を満たしていない。一方で、トランプ大統領の中国に対する通貨安との批判は続いており、監視リストに残る、あるいは為替操作国に認定される可能性も完全に消えたわけではない。そのため、一時的な人民幣安は避けたいとの中国当局の意向が相場に反映されることも考えられる。また、23日に仏大統領選挙が行われるが、欧州政治リスクが意識されユーロが軟調推移し、ドル高から、ドル/人民幣もドル高人民幣安となる局面も想定されるだろう。最近のドル/人民幣相場は当局が金融政策の引き締めを明確に示していることも背景に、一時的なドル高人民幣安には進みづらい地合いとなっているが、人民幣安が急速に進みそうな場面では、それを押さえる当局の介入にも警戒が必要だろう。なお、17日に中国1~3月期のGDPが発表される。ここ最近の比較的堅調な経済指標の結果から推察するに、先日の全人代で定められた成長率目標値6.5%を上回る結果が予想され、為替相場への影響は限定的と見られる。

【金利市場】

期末を越えたことから資金需要がいったん落ち着き、金利は若干低下する可能性がある。しかし、当局の金融引き締めスタンスを維持する中、流動性がタイトな状況から金利上昇圧力がかかりやすい状況が継続すると見られる。3月には公開市場操作などのオペ金利が引き上げられており、今後も当面は基準金利ではなくオペ金利で調整していくことが考えられる。また、PBOCが資金の流動性は適切だとしてオペ実施を見送ることも多くなっている。一方で、状況に応じて一部の金融機関に対し臨時資金供給を行うなど、PBOCはオペレーションを適宜調整している。そのため流動性はタイトな状況が続くと見られるが、大幅な金利上昇には繋がらないだろう。

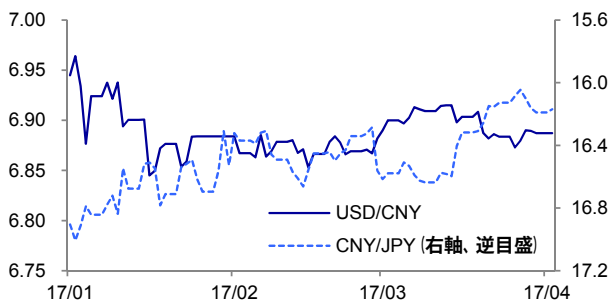
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

中国では日本のように「お花見=桜を見ながらお酒を飲む」、というのはあまり一般的では無いようですが、上海にも桜が植えられている場所がいくつかあり、純粹にお花見をする人は多いです。特に有名なのは「上海植物園」で、桜だけでなく、いろいろな植物があるので、春の外出先として人気があります。また、春になると公園などに行く「春游」があります。所謂ピクニックで、学生の学校行事として近くの公園に行って遊んだりするのが一般的ようです。上海ではバーベキューが出来るスポットもあり、友人と一緒に料理やお酒を楽しむところは日本と変わりません。少し行楽から外れますが、春分後の15日目(≒4月5日前後)にある清明節という休暇では、お墓参りをしています。今年の清明節は4月4日です。なお、清明節の前日には「寒食(火を使わない料理)」を食べる風習があり、この時期にはコンビニなどで草餅「青团」がよく売られています。餡子が入った普通のお団子で美味しいです。また、清明節では3連休となるため、過ごしやすい春の気候の中を小旅行をする人も多くいます。

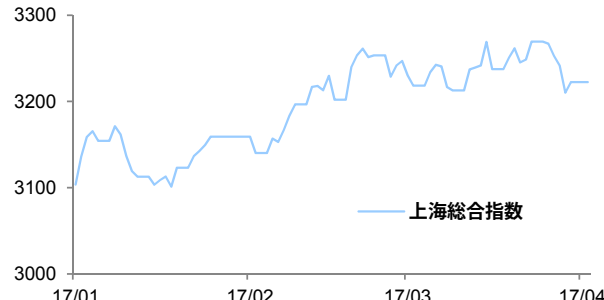
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	製造業PMI	2月	51.2	51.6	51.3
3/8	貿易収支(RMB建)	2月	172.50B	-60.36B	354.50B
3/8	輸出(RMB建) (前年比)	2月	14.6%	4.2%	15.9%
3/8	輸入(RMB建) (前年比)	2月	23.1%	44.7%	25.2%
3/9	CPI (前年比)	2月	1.7%	0.8%	2.5%
3/9	PPI (前年比)	2月	7.7%	7.8%	6.9%

シンガポールドル相場

予想レンジ:

USD/SGD	1.3850	~	1.4150
SGD/JPY	78.50	~	80.50

アジア・オセアニア資金部 鈴木 教子

■ 先月の為替相場

3月のシンガポールドル(SGD)相場は、前半は米利上げ期待からSGDが軟調推移。FOMC終了後はSGDが買われ4か月ぶり高値を更新した。2月末にFRB高官によるタカ派色の強い発言相次ぎ、米早期利上げ期待が高まる中、月初SGDは軟調にオープン。1日、トランプ米大統領による議会演説が波乱なく終了すると、SGDは1.40台前半から1.41台後半まで軟化。2日は、米新規失業保険申請件数が44年ぶり低水準をつけた他、パウエルFRB理事から「3月利上げの根拠が揃ってきた」との発言があった。更に3日には、週末のイエレンFRB議長講演の原稿に「経済指標が予想通りであれば、3月の利上げが適切」との記述があると報道され、これらを材料にSGDは1.41台後半まで続落した。しかし、週末を控えた利食いも出てその後は1.41近辺に戻って越週した。

第2週は、週前半は1.41台前半で揉み合っていたが、8日に発表された米2月ADP雇用統計が予想を大幅に上回り、米2月雇用統計改善への期待が高まると、SGD売りが強まった。10日の米2月雇用統計発表前には1.42台前半まで売られていたが、2月雇用統計のうち、平均時給の伸びが予想を下回ったことが材料視され、SGDは1.41台前半まで反発して引けた。

第3週の週前半は、FOMC前の調整でSGDが一旦1.41台後半まで下落。15日のFOMCでは市場の予想通り25bpの利上げが決定されたが、メンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)における2017年の利上げ見通しは3回で据え置かれた。市場参加者は4回への加速を期待していただけに、発表を受けてドル安が強まり、SGDも一気に1.40台前半まで急反発した。週後半は、イベント通過で再び小動きとなった。

週明けの20日は、ドル安基調が回復し、SGDが1.39台後半へ続伸。トランプ政権によるオバマケアの代替法案の調整が難航し、不透明感が漂う中で、1.39台後半のSGD高値圏での揉み合いが続いた。そして24日にトランプ大統領が法案を撤回すると、大型減税や財政拡大の実現に対する懸念から、翌週27日はドルが全面安となり、SGDは1.39近辺まで買われて昨年11月以来の高値をつけた。その後は期末の需給取引中心で、1.39台でのレンジ取引に終始した。

■ 今月の見通し

4月のSGD相場は、シンガポール金融管理局(MAS、中央銀行)の通貨政策見直しなどに注目しながら、SGDが底堅く推移すると予想。

4月第2週頃に発表予定のMASの通貨政策は、政策バンドの傾斜をゼロとする(SGD高、SGD安のいずれにも誘導しない)中立スタンスを維持し、バンドの中心値、幅ともに現状を維持するとの見方が太宗。ただ、数か月前に一部で予想されていた緩和的スタンスに変更する可能性は消滅し、もしサブライズがあるとすれば、引き締めのスタンスへの変更との見方が増えてきている。声明の中に、次回以降の見直しにおける引き締めバイアスの復活を示唆するのではないかと見方もある。タカ派な見方へのシフトの背景には、足許インフレの上昇傾向が明確になって来ており、輸出も予想以上に堅調であることがあり、同じく第2週頃発表予定の1~3月期GDP(速報値)も注目されよう。MASの通貨政策、及びGDP発表に向けて思惑でSGDが底堅く推移する可能性があり、また結果によってはSGD堅調地合いがその後も継続する可能性がある。

海外要因では、トランプ大統領の経済政策、米利上げペースが焦点となる。ヘルスケア法案の撤回を余儀なくされたことで、トランプ政権の政策遂行能力に懸念が拡がりつつあり、大型減税、大型インフラ投資への期待でドルが買われてきたトランプ相場の調整圧力から基調はドル軟調地合いとなりそうだ。一方で、FRB高官の発言や米経済指標により、年内3回とされている米利上げペースが加速するとの期待が拡がる可能性もあり、その場合はドルが下支えされよう。

SGD高値の目途としては、昨年11月の米大統領選以降のドル高相場の起点となった1.38台半は近辺がターゲットとなりそうだ。

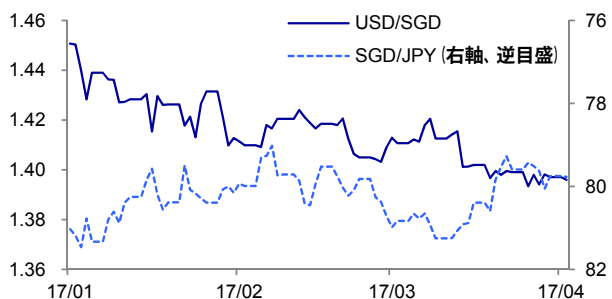
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

シンガポールには四季がありません。ご存知の通り、雨季と乾季に二シーズンで、いつでも常夏です。なのでもちろんお花見といった慣習はありませんし、春というシーズンもないので旧正月のようなこれといった行事はありません。一方で、総じてシンガポリアンは日本への旅行が好きなので(日本の会社に勤めているからかもしれないが)。この季節は必然的にサクラを絡ませるものが多くなります。こちらの旅行会社でも九州のサクラ、東京のサクラ、東北のサクラ、北海道のサクラと日本全土のお花見が用意されております。値段もさすがにデフレ真っ只中の日本向けだけに5日間で10万円しないものも結構あり、ついシンガポールからの日本国内旅行もいいかなと思ってしまいます。話を元に戻しますと、普段、日本にいと花粉症のシーズンでもあり、サクラに対する関心は正直あまり高くなく、年1回の帰国も基本的にはむしろ春ははずしておりましたが、こちらに来て4年を越え、季節感を体が欲してくるようになってシンガポリアンがサクラを求めて日本へ旅立つ気持ちも分かるような気がします。(宮地崇)

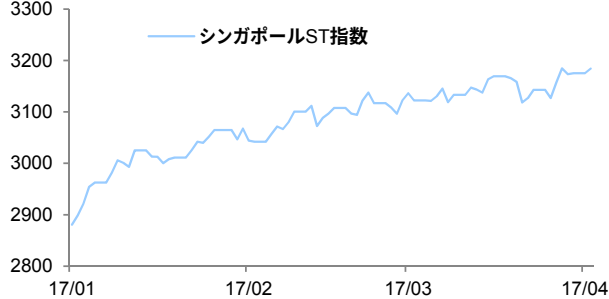
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	購買部景気指数	2月	51.0	50.9	51.0
3/2	電子産業指数	2月	-	51.4	51.8
3/10	小売売上高(前年比)	1月	0.8%	2.0%	0.7%
3/17	非石油輸出(前年比)	2月	12.5%	21.5%	8.6%
3/23	CPI(前年比)	2月	0.7%	0.7%	0.6%
3/24	鉱工業生産(前年比)	2月	10.0%	12.6%	3.8%

タイバーツ相場

予想レンジ:

USD/THB 34.00 ~ 35.00
THB/JPY 3.20 ~ 3.30

バンコック資金室 関 浩士

■ 先月の為替相場

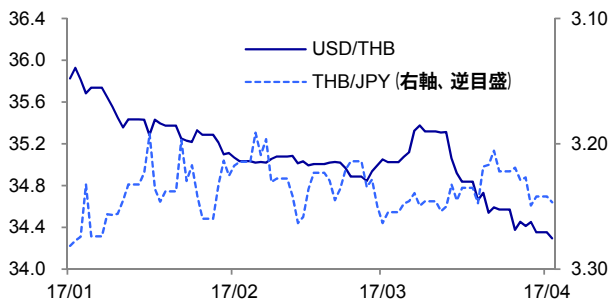
○ドル/バーツは下落

3月1日のドル/バーツは34.97バーツにて取引を開始。トランプ米大統領の議会演説は、経済政策や税制改革についての具体的内容は含まれなかったものの、概ね内容は事前予想通りであり、無難に通過。3日にイエレンFRB議長が「経済指標が想定どおりであれば3月の利上げは適切」と発言した事で、3月の利上げ見通しが高まるとタイ国債市場から資金流出が続くバーツ売り優勢の展開となる。8日には、国債市場からの資金流出が加速し、外国人投資家によるタイ国債売買状況は昨年11月以来の大幅売り越し超となった。株式相場の下落も相俟ってドル/バーツは上昇し、海外時間に発表された米2月ADP雇用統計が予想を大きく上回る結果となるとドル/バーツ35.33バーツまで上昇した。リスクオンの流れから、海外投資家によるタイバーツ債券売りの圧力が継続すると、10日にはドル/バーツは月間高値となる35.42バーツまで上昇。海外時間に発表された米2月雇用統計は良好な結果となるものの、発表後に利食い売りが優勢となると、ドルバーツは35.33バーツまで下落した。

13日ウィラタイ・タイ中銀(BOT)総裁は「FRBが利上げをしてもタイ金融市場には影響ない」と発言したが相場への影響は限定的であった。15日には注目されたFOMCにて年内の利上げ見通しが3回から変わらなかったことが失望と捉えられると、ドル/バーツは下げ幅を拡大させ、35.04バーツまで下落。17日には海外時間に発表された米国の期待インフレのデータが大幅に低下したことで、FRBの利上げペース鈍化するとと思惑からドルバーツは34.73バーツまで低下した。20日はドル金利低下を背景としたドル売り優勢の流れを受け、海外投資家勢のタイバーツ債、タイ株式への資金流入が観測される中、バーツ高が進行すると34.63バーツまで下落。22日にはオバマケア代替法案の可決が難航するとと思惑からドル売りが加速すると34.55バーツまで下落した。週末にオバマケア代替法案が撤回された事を背景に、27日はドル売り優勢な展開が継続。タイ国債市場への海外投資家による資金流入から、タイバーツ買い圧力も高まるとドルバーツは月間安値となる34.33バーツまで下落した。29日に開催されたBOTの金融政策決定会合では、全会一致で政策金利の据え置きが決定された。BOTより、タイバーツ高に対する経済への懸念も表明されたものの、発表前に一時34.54バーツまで上昇していたドルバーツは、再び34.40バーツ近辺まで下落に転じた。

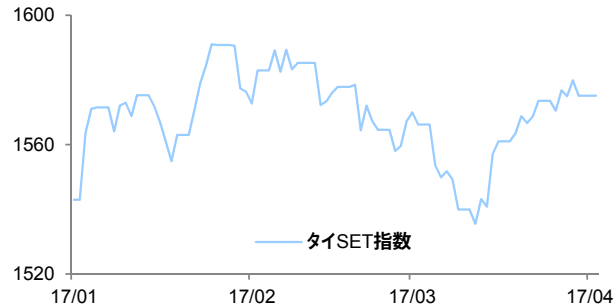
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

タイで有名な花見と言えばヒマワリです。サラブリー県とロブリー県の県境沿いに広がるヒマワリ畑は、タイ最大のヒマワリ生産地で、11月から12月には見渡す限りの畑が黄一色に染められます。自家用車、観光バスに加え、特別列車も発着し、タイ人のみならず海外からの観光客含めて賑わいます。元々は観光用に植えられたものではなく、種実から食用と産業用の原料となる油を搾り取る為だったようでして、ヒマワリ油は食用と産業用、繊維質の茎はパルプの原料にもなるらしく、農家は、毎年9月から10月にかけて種まきを行い、約2か月半後に自然乾燥した種実と茎を収穫して出荷するそうです。

もう一つ有名な花見は蓮の花。ウドンターニー県に「紅い睡蓮の海」と名づけられた湖があり、広大な湖では、毎年12月から2月上旬にかけての早朝、水面が紅い蓮の花で埋め尽くされ、その名の通り湖が紅く染まる幻想的な景色を見ることができます。1月から2月上旬の満開の時期にはボートも出ており、湖を周遊することも可能です。どちらの花見も多数の観光ツアーが組まれ、バンコクから手軽に参加が出来ますので、バンコクへ訪れた際には是非観光スポットとしてご検討下さい。

■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	消費者物価指数(前年比)	2月	1.60%	1.44%	1.55%
3/1	CPIコア(前年比)	2月	0.70%	0.59%	0.75%
3/10	消費者信頼感	2月	-	75.80	74.50
3/22	輸出(通関ベース/前年比)	2月	-4.00%	-2.76%	8.83%
3/22	輸入(通関ベース/前年比)	2月	12.50%	20.36%	5.17%
3/24	自動車販売台数	2月	-	68,435	57,254
3/29	タイ中央銀行指標金利	-	1.5%	1.5%	1.5%
3/31	経常収支	2月	\$4,605M	\$5,735M	\$5,008M

マレーシアリング相場

予想レンジ:

USD/MYR	4.35	~	4.45
MYR/JPY	24.50	~	25.50

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

■ 先月の為替相場

先月のリング相場は4.44台前半でオープン。オープン後、原油相場の下落からリングが弱含む展開。2日のマレーシア中銀(BNM)の金融政策決定会合では、予想通り政策金利は据え置かれ、マレーシアの経済成長についてはやや楽観的な見方が示されたが相場への影響は限定的。週末にかけても他のアジア通貨同様、じり安となり4.45台前半まで値を下げた。

6日には、前週末にイエレンFRB議長とフィッシャーFRB副議長が利上げに前向きな発言をしたことで、FOMCでの利上げ期待が一段と高まり、リングは4.45台後半まで売られた。しかし、同レベルでは一旦利益確定のドル売りに4.44台半ばまで小反発。ところが、8日に発表された米2月ADP雇用統計が事前予想を上回る内容であったことから、米2月雇用統計への期待感が高まると同時にFRBによる更なる利上げ期待も強まり、ドル買いに転じリングは4.46台前半まで下落。10日には、米2月雇用統計の発表を控え、様子見姿勢が強まり4.45台半ばまで値を上げた。

月半ばに入ると、13日にはドル売りの流れが強まりリングは4.44台半ばまで上昇。同日発表されたマレーシア1月鉱工業生産は市場予想に比べ悪化するも相場への影響は限られた。その後、注目されていたFOMCで予想通りの利上げとなるも、政策金利の見通しにて利上げ回数の見通しが3回で据え置かれたことからドルが急落。翌16日に一旦4.42台前半まで値下げたが、原油価格の反落が嫌気され4.44台前半まで軟化した。

月後半には、ドル売りの流れに一旦4.42台半ばまでリングが上昇。しかしながら、オバマケア代替法案の米下院通過に懸念が生じたことや原油減産目標の達成が6月以降にずれ込むとのOPEC関係者の発言を材料に原油価格が下落すると、リングは4.43台半ばまで下落。しかし、同レベルでは下げ渋り4.42台前半まで値を戻した。

月末週には、一旦オバマケア撤回に失望したドル売りにリングは約4か月ぶりの高値となる4.41割れをつけた。しかしながら、その後は良好な米経済指標を背景にドルの買戻しが入り4.42台半ばで先月の取引を終了した。

■ 今月の見通し

先月発表されたマレーシアの経済指標は総じて底堅い内容であった。まず、1月の輸出は前年比+13.6%と前月から加速。こちらは、原油価格が底堅い値動きであったことを背景に原油や石油関連商品が拡大。また、世界経済の底入れの動きも手伝い、概ね良好な状況が継続。また、2月製造業PMIも49.4と約1年10か月ぶりの強い結果を実現。マレーシア経済の着実な回復傾向を示す格好となった。

一方、2月のマレーシア消費者物価指数(CPI)については、前年比+4.5%と2009年1月以来の約8年ぶりの高い水準となった。エネルギー価格に加え、食料品等広範囲に物価上昇圧力が高まっており、インフレについては、金融政策への影響も含めて注意が必要か。

また、先月は、BNMの金融政策決定会合が開催された。政策金利は大方の予想通り3.00%に据え置かれたが、声明文では足許の世界経済について、先進国、新興国の景況感の回復に言及した。一方で、保護主義や地政学リスクに起因するリスクにも触れているが、マレーシア経済は内需だけでなく、外需にも成長が支えられるとして、景気判断はやや楽観的にシフトしたように見える。

但し、一旦歯止めがかかったと思われた海外投資家によるマレーシア国債投資からの流出に絡むフローが、再度リング相場を押し下げているとの向きもあり、リングが一方方向に買われる展開は考えづらい。

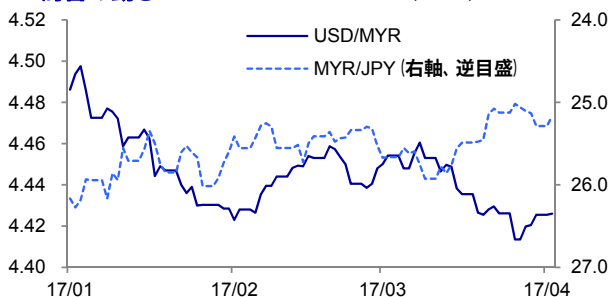
トランプ米大統領の政策の実現性に係る相場に、リングも影響を受けるものと思われるが、回復傾向を強めるマレーシアのファンダメンタルズが次第に材料視され、今月のリングは底堅い値動きとなるものと予想する。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』
マレーシアには四季がなく、日本で言えば1年中夏なので今回のテーマでは残念ながら特筆すべきものはありません。一応調べてみると、日本の桜とは異なるもののノウゼンカズラ科の花が非常に日本の桜に似ていて3月から4月頃にペナン州やケダ州で咲くらしく、現地の人の中には「Malaysian Sakura」と呼んでいる人もいます。(マレーシアみずほ 山田)

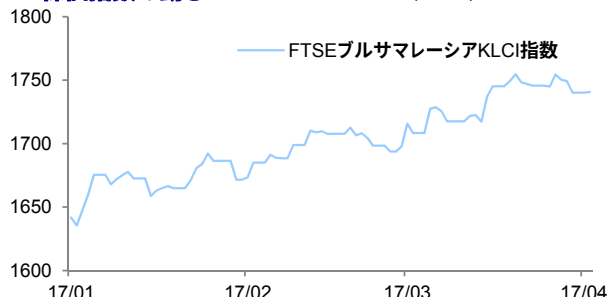
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/2	BNM翌日物政策金利		3.00%	3.00%	3.00%
3/3	輸出 (前年比)	1月	15.0%	13.6%	10.7%
3/3	輸入 (前年比)	1月	10.2%	16.1%	11.5%
3/3	貿易収支 (MYR)	1月	8.43b	4.71b	8.72b
3/13	鉱工業生産 (前年比)	1月	5.3%	3.5%	4.7%
3/24	消費者物価指数(前年比)	2月	4.0%	4.5%	3.2%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR	13200	~	13600
IDR/JPY	0.80	~	0.87
JPY/IDR	115.00	~	125.00

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

インドネシアみずほ銀行 河合 良介

■ 先月の為替相場

3月のドル/ルピアは、13300～13400のレンジでの取引となり、先月に引き続き、月中値動きが100ポイントと小幅レンジでの推移となった。

月前半、13355近辺でスタートしたドル/ルピアは、8日、米2月ADP雇用統計が市場予想を大幅に上回ったことに加え、米原油在庫が急増したことを受けて原油価格が下落し新興国通貨が軟調な展開になると、10日には、ドル/ルピアも13400近辺まで上昇したが、上昇幅は限定的。1日発表されたインドネシア2月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.83%と1月(同+3.49%)から加速した。7日に発表されたインドネシア2月外貨準備高は、1199億ドルと前月比+30億ドル増加し、順調に外貨準備を積み上げる結果となった。

月半ば、15日のFOMCにおいて、25bpの利上げ決定されたが、メンバーの政策金利見通し(ドットチャート)による2017年の利上げ回数見通しは引き続き3回となり、4回を期待していた一部参加者の失望感からドル/ルピアは反落。

15日発表されたインドネシア2月貿易収支は、USD+1,319Mの黒字となり、前年から続く黒字基調を維持した。また、16日、インドネシア中央銀行(BI)は、金融政策決定会合にて、米国の追加利上げ決定したことをはじめとする、国内外のリスク要因を引き続き警戒していくため、5か月連続で据え置きとした。

月後半、ドル/ルピアは、堅調な海外からの資金流入を背景に、下落を続け、加えて、27日には、トランプ米大統領がオバマケア代替法案の撤回を余儀なくされたことで、税制改革やインフラ投資などの景気刺激策実行への懸念が強まりドルが売られる動きに、一時13300をつけ、結局、3月27日現在(終値)、13310近辺での取引となっている。

また、ジャカルタ株価総合指数は、17日、約2年ぶりに終値ベースの過去最高値を更新。27日現在(終値)、5,541.20となっている。

■ 今月の見通し

今月のドル/ルピアは、引き続き、ルピア堅調地合いの中、メインシナリオとして、13300～13400をコアレンジとした狭いレンジ取引を予想する。

最近のルピア相場安定の背景には、まず、資源価格の回復をうけた貿易黒字の恒常化(1～2月は2か月連続の黒字額13億ドル超えを実現)・経常赤字縮小(2016年7～9月期:▲46.7億ドル、10～12月期:▲18.1億ドル)によるドル買いフローの減少が挙げられる。

また、昨年11月の米大統領選挙時の一時的な混乱以降、海外からの資金流入は回復。先月実施された米利上げの影響も限定的で、資金流入は順調に増加しており、ジャカルタ株価総合指数は、2年ぶりの高値更新、債券市場についても、債券利回りは、米大統領選挙前の水準まで低下し、ルピアのサポート材料となっている。

引き続き、上記の流れが継続することで、ルピアは堅調な展開を予想する。

また、報道によれば、インドネシア政府は、米大手格付会社の中で、唯一投資適格級の格付を付与していないS&Pに対し、格上げ要請を行う方針を明らかにしている。要請そのものの効果は不明だが、実際、ムーディーズは2月に格付見通しを「安定的」から「ポジティブ」に変更していること、上記の通り経常赤字が縮小していることなどを考慮すれば、近い将来、S&Pによる格上げも十分に考えられ、もし実現すれば、強力なルピアサポート材料となるだろう。

一方で、13300近辺では、中央銀行によるルピア売り外貨買い介入の憶測もあり、下値は限定的と見ている。

今月は、ジャカルタ特別州知事選挙の決選投票が、4月19日に予定されているが、本結果の影響は限定的と見ている。

■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

インドネシアは乾季・雨季こそあるものの、年中暑く季節感が全くないので、「春」という概念は、基本的に存在しません。

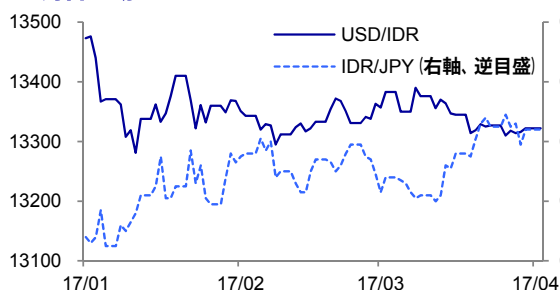
日本は、インドネシア人の方の海外旅行の行先として、とても人気があります。そして季節感がない反動からでしょうか、旅行会社は「SAKURAツアー」という名のツアーを用意するほど、春のお花見シーズンは人気の高い時期です。

インドネシアみずほの現地行員はもとより、インターバンクの取引相手からも、セミナーなどで出くわすと、「日本観光」のアドバイスを求められることが多く、「北海道と白川郷どっちがお奨めだ?」と聞かれたことも、、、。良く勉強しているんです。

まだ、会話の中で、「日本にはスキーをしに行ったことがあるが、SAKURAはまだ見たことがない、、、。」と残念そうに語ってくれる姿が印象的でした。

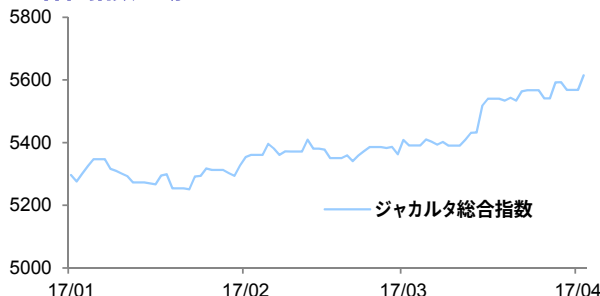
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	CPI (前年同月比)	2月	3.90%	3.83%	3.49%
3/7	外貨準備高(USD B)	2月	-	119.9	116.9
3/15	貿易収支(USD M)	2月	1,322	1,319	1,396
3/15	輸出 (前年比)	2月	16.06%	11.16%	27.87%
3/16	BI 7daysリバースレボ金利		4.75%	4.75%	4.75%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 49.80 ~ 51.00
PHP/JPY 2.17 ~ 2.22

マニラ支店 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

3月のドルペソ為替相場(オンショア・インターバンク)は50.32ペソで取引開始。
米当局者の米金利に対するタカ派発言が伝わったことで月初はドル買い地合。

3日には10年半ぶりのペソ安水準である50.40ペソを記録した。
この50.40ペソが今月の高値となりそう。

アジア通貨が年初より対ドルで強含む中、フィリピンペソは独歩安。10年半ぶりのペソ安値を更新中であつたことから当局の市場介入が強烈に意識され、ドルペソの上値は抑えられた格好に。

米2月雇用統計、FOMCもドル売り材料とされたこともあり、月央には一時50.08ペソまでペソの買い戻しが進んだ。

しかしながら実需のドル買い意欲も旺盛でペソ高も限定的となると、月末に掛けては、トランプ政権の政策実行能力への懐疑的な見方からリスクオフ地合となり、ドル強含み相場に。

とはいえ、引き続き、50.40ペソでは当局介入が意識され50ペソ前半での揉み合いに終始しそうだ。

(3月28日18時現在)

■ 今月の見通し

年初からアジア通貨の中でペソだけが独歩安となっている背景にはドゥテルテ大統領の不正蓄財、過去の超法規的措置疑惑の台頭が市場参加者に嫌気されているため。外国人投資家のフィリピン株売りも止まらない。

2月の消費者物価は前月の前年比+2.7%から上昇、同+3.3%を記録。2014年11月に記録した同+3.7%に次ぐ高い上昇率。
1月のOFW(海外在留フィリピン人労働者)送金実績は、前年同月対比で+8.6%増と堅調な数字。これらはペソ売り圧力緩和となりうる材料。

23日のフィリピン中銀(BSP)金融政策委員会では、大方の市場参加者の予想通り、政策金利が据え置かれた。またインフレ率を下方修正(2017年3.5%→3.4%、2018年3.1%→3.0%)した。

ブルームバーグ社の調査ではエコノミスト21人中、2人が利上げを予想しており、全員一致とならなかったのは2年ぶり。今後のペソ政策金利の利上げ有無と時期について思惑が交錯しそうだ。

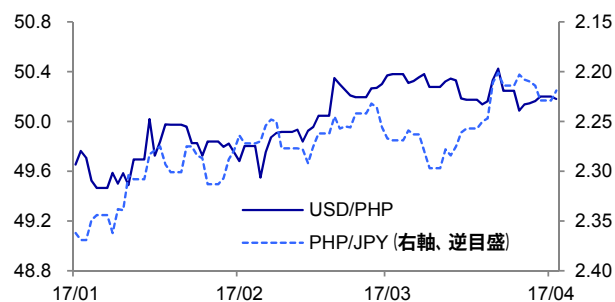
テタンコBSP総裁はインフレについて、17年7~9月期がピークになるとコメント、インフレターゲット(+2~4%)の中に収まり、現状の政策金利で十分インフレをコントロールできているとの認識を示した。
また、為替水準については、「急激な変動には市場介入するが、現在の水準に特段の懸念はない」と述べた。

フィリピン12月財政収支は、▲1180億ドルの赤字。前月の▲191億ドルから大幅に赤字幅が拡大。2016年の財政赤字は累計で▲3,534億ドルとなり、GDP対比▲2.4%となった。政府の目標である▲2.7%より低いものの、これは2010年の▲3.5%に次ぐ高水準となった。

ペソを買える材料に乏しい。グローバルなドル売りの流れでペソが強含むことがあっても限定的なものとなりそう。

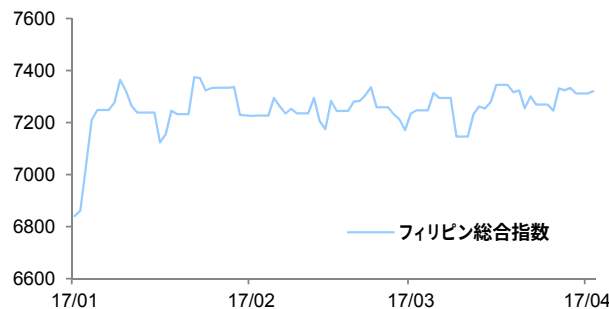
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
上記ご参照

(資料)ブルームバーグ
期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ:

USD/INR	63.00	~	66.00
INR/JPY	1.65	~	1.75

アジア・オセアニア資金部 田川 順也

■ 先月の為替相場

【3月のドル/ルピーは下落した】

当月のドル/ルピーは66.79レベルでオープン。当初はFOMCの前に保ち合いが続き、一時当月の高値となる66.86近辺をつけるも方向感はず、66.60~66.80のレンジ内で動きづらい展開。

中盤にかけては注目されていたFOMCで事前予想通りの利上げとなったが、今後の政策運営についてよりタカ派なコメントを期待していた向きや、ドル買い持ちポジションの利益確定のドル売りもあり、利上げ発表後にドルは弱含む展開。インド材料では3月11日に開票が行われた地方選挙にて、モディ首相率いる中央政府与党のインド人民党(BJP)が大勝したことが材料視され、モディ政権への期待が高まるとルピーが買われる展開。米国発のドル売りとインド発のルピー買いが相まってドル/ルピーは64.40を割り込む水準まで一気に下落。米金利の低下が一段落を見せるとドル/ルピーも下げ渋りを見せるが、終盤にかけて再度下値を試しにいく動きに29日の執筆時点で64.93で取引されている。

【3月のルピー/円は上に往って来いの展開だった】

1.69レベルでオープンしたルピー/円は米利上げ期待にけん引され、ドル/円が115円をつけに行く展開にじり高推移。FOMC通過後はドルが既述の通り売られる展開にドル/円は円高に戻すも、州選挙の結果を受けたルピー買いが強くルピー/円は一時1.75超えをつけた。

月後半以降は対ドルで落ち着いた推移となるルピーを横目に、オランダ政局不安やオバマケアに絡んだトランプ政権への不安に円は継続的に買われ続け、結果的にルピー/円も下落一時1.69を割り込んだ。29日の執筆時点ではやや水準を戻し1.71近辺で取引されている。

■ 今月の見通し

【4月のドル/インドルピーは上値の重い推移を予想】

ここへきてトランプ政権に暗雲が立ち込め始めている。トランプ氏としてはヘルスケア案よりも重要かつ早期に決定したい課題がある中で、優先度の低い本件を断念したと考えているかもしれないが、前提としてタフなネゴシエーターという印象がある中、マーケットの受け取り方は芳しくない。昨年からのドル相場はトランプ期待に裏打ちされたものであり、その前提が崩れるのは危険である。

とかくドル/ルピーに目を向けると、昨年11月の米大統領選挙前には1ドル=66ルピー後半で推移していたが、選挙後には一時68.77までの急伸を見せた。但し、2月以降の動きで選挙後の上昇分を全てはき出し、2015年秋以来の水準まで下落している(この間アメリカは2度利上げしたにも関わらずだ)。今後トランプ相場の調整が更に進む可能性もあり、留意したい。

一方、インド国内に目を向けると経済指標からは高額紙幣廃止の影響が想定よりも小さく、昨年末から底打ちの動きが確認されている。唯一弱い物価についてもコア指標では堅調な推移となっており、2月インド準備銀行(RBI、中央銀行)会合で当局が述べている「短期的な影響に留まる」を地でいく様相となっている。利下げ期待の剥落に加え、今般の選挙では現政権の屈強さも確認され、今後の改革に期待が高まっている状況であり、ルピーの下支えとなりそうだ。

4月はトランプ政権の動向がメインドライバーとなろうが、基調的にはドル/ルピーは上値の重い推移を想定している。

リスクシナリオとしてはドル/ルピーは1月末から既に4%超下落していることから、調整局面が入る可能性や、月後半に予定されているフランス大統領選の第一回投票に向けてリスク回避的な動意に注意したい。

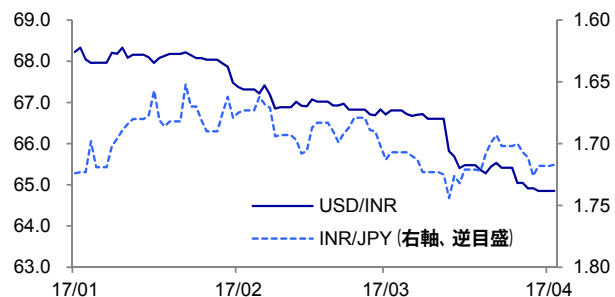
■ 今月のつぶやき (現地からの声)

『当地のお花見や春の行楽事情』

インドでお花見？こちらで思い浮かぶ花はブーゲンビリアの赤・白だけなのです。しかもモンスーンの雨季を除き一年中咲いています。そもそも「春」ってどの時期にあたるんだっかしら、と思っておいたら春のイベントがありました。いまやヨーロッパのClubでもその祭りの内容を取り入れているという「ホーリー祭(Holi)」です。森本達雄著(2010)『ヒンドゥー教』中公新書によると、ホーリー祭はインド暦の第11月にあたるパールグナ月(太陽暦の2月半ば~3月半ば)の満月の日にクライマックスに達する春の大祭で、古くは豊作祈願の祭りだったといひます。ホーリー祭が近づくにつれ、路上にはカラフルな色粉を売る露天商があちこちに並びます。その色粉を、地位も身分も関係なく互いに投げ合います。この様子はさながら昔のドリアーズのパイ投げのよう。インド中で子供から大人までがその騒ぎに興じているのを見るにつけ、グローバル化ですっかり“ザ・インド”といえるものが少なくなってきたように思えるムンバイの街にも、人間くさい活気を感じるのです。最近では遠くまで飛ばせる水風船を用意して投げ合うのも多くなっているようで、いつぞやは、リキシャ(小型タクシー)に乗っていたところ、横から水風船が飛んできて狭い車内で友人とびしょぬれになったこともあり。見ず知らずの子供にびしょぬれにされてひとつ叱りたいところですが、それも笑いに興じるのがこの日の醍醐味です。文字だけではその乱痴気騒ぎの様子は伝えられる文章力は私にはなく、ぜひインターネットで「ホーリー祭」の画像を探して想像してみてください。そして百聞は一見にしかず、いつかインドでその色彩と人間臭さをご堪能ください。(ムンバイ支店 渡辺)

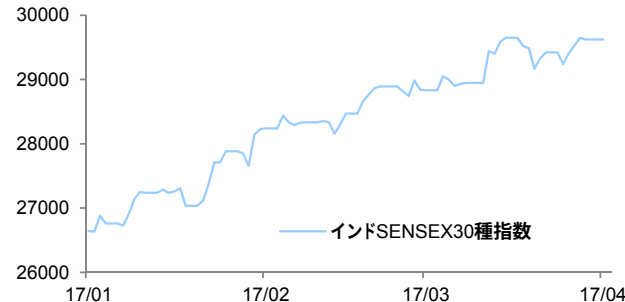
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

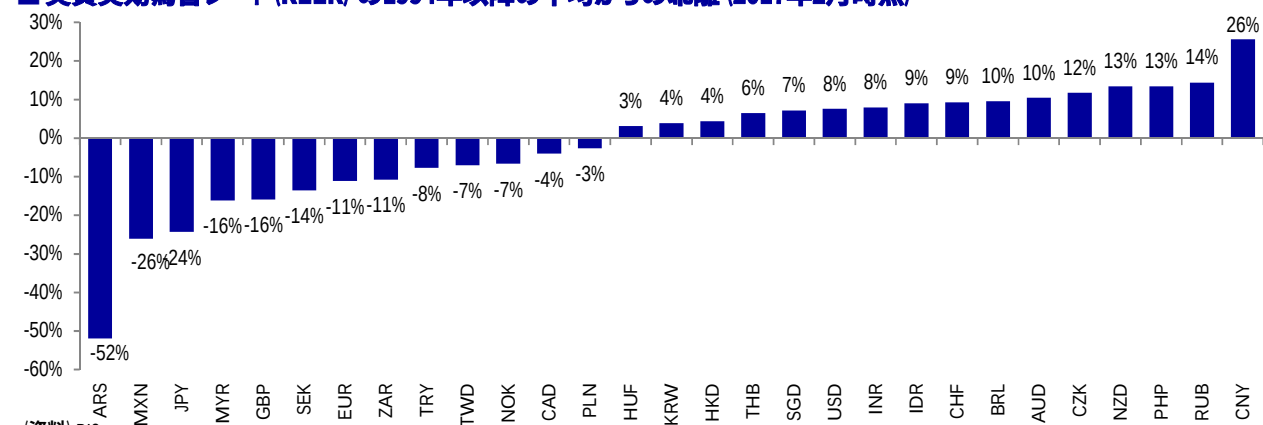
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/1	PMI製造業	2月	-	50.7	50.4
3/3	PMIサービス業	2月	-	50.3	48.7
3/10	鉱工業生産 (前年比)	1月	0.5%	2.7%	-0.1%
3/14	消費者物価指数 (前年比)	2月	3.60%	3.65%	3.17%
3/15	輸出 (前年比)	2月	-	17.5%	4.3%
3/15	輸入 (前年比)	2月	-	21.8%	10.7%

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2016年末	2017年3月末	騰落率	株式市場	2016年末	2017年3月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	19762.6	20663.22	4.6%	-
日本	USD/JPY	116.96	111.39	-4.8%	日経平均株価	19114.37	18909.26	-1.1%	3.9%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0517	1.0652	1.3%	ドイツDAX指数	11481.06	12312.87	7.2%	7.2%
英国	GBP/USD	1.234	1.255	1.7%	ロンドンFTSE100指数	7142.83	7322.92	2.5%	0.8%
豪州	AUD/USD	0.7208	0.7629	5.8%	S&P/ASX200指数	5665.8	5864.905	3.5%	-2.2%
カナダ	USD/CAD	1.3441	1.3318	-0.9%	S&Pトロント総合指数	15287.59	15547.75	1.7%	2.6%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.945	6.8872	-0.8%	上海総合	3103.637	3222.514	3.8%	4.7%
香港	USD/HKD	7.7559	7.7709	0.2%	香港ハンセン	22000.56	24111.59	9.6%	9.4%
インド	USD/INR	67.9238	64.85	-4.5%	インドSENSEX30種	26626.46	29620.5	11.2%	16.5%
インドネシア	USD/IDR	13473	13322	-1.1%	ジャカルタ総合	5296.711	5568.106	5.1%	6.3%
韓国	USD/KRW	1205.83	1118.45	-7.2%	韓国総合株価	2026.46	2160.23	6.6%	14.9%
マレーシア	USD/MYR	4.4862	4.4255	-1.4%	ブルサマレーシアKLCI	1641.73	1740.09	6.0%	7.4%
フィリピン	USD/PHP	49.6	50.2	1.2%	フィリピン総合	6840.64	7311.72	6.9%	5.6%
シンガポール	USD/SGD	1.4468	1.3971	-3.4%	シンガポールST	2880.76	3175.11	10.2%	14.1%
台湾	USD/TWD	32.326	30.348	-6.1%	台湾加権	9253.5	9811.52	6.0%	12.9%
タイ	USD/THB	35.835	34.353	-4.1%	タイSET	1542.94	1575.11	2.1%	6.5%

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート (REER) の1994年以降の平均からの乖離 (2017年2月時点)



(資料) BIS

■ 実質GDP成長率

	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2015	2016
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.6	2.0	0.9	0.8	1.4	3.5	2.1	2.6	1.6
日本*	0.0	0.6	-1.0	1.9	2.2	1.2	1.2	1.2	1.0
ユーロ圏	2.0	1.9	2.0	1.7	1.6	1.8	1.7	2.0	1.7
英国	2.4	1.8	1.7	1.6	1.7	2.0	1.9	2.2	1.8
豪州	2.0	2.4	2.5	2.5	3.1	1.9	2.4	2.4	2.5
カナダ*	-0.5	2.3	0.5	2.7	-1.2	3.8	2.6	1.0	1.4
エマージングアジア									
中国	7.0	6.9	6.8	6.7	6.7	6.7	6.8	6.9	6.7
香港	3.1	2.3	1.9	1.0	1.7	2.0	3.1	2.4	1.9
インド	7.8	8.4	6.9	8.6	7.2	7.4	7.0	7.9	
インドネシア	4.7	4.8	5.2	4.9	5.2	5.0	4.9	4.9	5.0
韓国	2.4	3.0	3.2	2.9	3.4	2.6	2.4	2.8	2.8
マレーシア	4.9	4.7	4.5	4.2	4.0	4.3	4.5	5.0	4.2
フィリピン	5.9	6.2	6.5	6.8	7.0	7.0	6.6	5.9	6.8
シンガポール	2.0	2.1	1.3	1.9	1.9	1.2	2.9	2.0	2.0
台湾	0.7	-0.7	-0.8	-0.2	1.1	2.1	2.9	0.7	1.4
タイ	2.9	3.0	2.7	3.1	3.6	3.2	3.0	2.9	3.2

(注) インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	16/08 (%)	16/09	16/10	16/11	16/12	17/01	17/02	2015 (%)	2016
先進国									
米国	4.9	4.9	4.8	4.6	4.7	4.8	4.7	5.3	4.9
日本	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	2.8	3.4	3.1
ユーロ圏	9.9	9.9	9.8	9.7	9.6	9.6		10.9	10.0
英国	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7		5.4	4.9
豪州	5.7	5.6	5.6	5.7	5.8	5.7	5.9	6.1	5.7
カナダ	7.0	7.0	7.0	6.8	6.9	6.8	6.6	6.9	7.0
エマージングアジア									
中国		4.0			4.0			4.1	4.0
香港	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4
インドネシア	5.6							6.0	5.6
韓国	3.8	3.9	3.8	3.6	3.5	3.6	4.0	3.6	3.7
マレーシア	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5		3.2	3.5
フィリピン			4.7			6.6		6.3	5.5
シンガポール		2.1			2.2			1.9	2.1
台湾	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
タイ	0.9	0.9	1.2	1.0	0.8	1.2	1.1	0.9	1.0

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	16/09	16/10	16/11	16/12	17/01	17/02	17/03	2015	2016
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	1.5	1.6	1.7	2.1	2.5	2.7		0.1	1.3
日本	-0.5	0.1	0.5	0.3	0.4	0.3		0.8	-0.1
ユーロ圏	0.4	0.5	0.6	1.1	1.8	2.0	1.5	0.0	0.2
英国	1.0	0.9	1.2	1.6	1.8	2.3		0.0	0.7
豪州	1.3			1.5				1.5	1.3
カナダ	1.3	1.5	1.2	1.5	2.1	2.0		1.1	1.4
エマージングアジア									
中国	1.9	2.1	2.3	2.1	2.5	0.8		1.4	2.0
香港	2.7	1.2	1.2	1.2	1.3	-0.1		3.0	2.4
インド	4.3	4.2	3.6	3.4	3.2	3.7		5.9	5.0
インドネシア	3.1	3.3	3.6	3.0	3.5	3.8		6.4	3.5
韓国	1.3	1.5	1.5	1.3	2.0	1.9		0.7	1.3
マレーシア	1.5	1.4	1.8	1.8	3.2	4.5		2.1	2.1
フィリピン	2.3	2.3	2.5	2.6	2.7	3.3		1.4	1.8
シンガポール	-0.2	-0.1	0.0	0.2	0.6	0.7		-0.5	-0.5
台湾	0.3	1.7	2.0	1.7	2.3			-0.3	1.4
タイ	0.4	0.3	0.6	1.1	1.6	1.4		-0.9	0.2

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2015Q2 (対GDP比%)	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2016Q2	2016Q3	2016Q4	2015 (対GDP比%)	2016
先進国									
米国	-2.4	-2.5	-2.5	-2.6	-2.7	-2.6	-2.6	-2.6	-2.6
日本	2.2	2.8	3.1	3.4	3.5	3.7	3.8	3.1	3.8
ユーロ圏	2.9	3.0	3.0	3.1	3.3	3.2	3.4	3.0	3.4
英国	-4.6	-4.3	-4.3	-4.5	-4.7	-5.1	-4.4	-4.3	-4.4
豪州	-5.2	-4.8	-5.6	-3.6	-3.7	-2.4	-0.9	-4.7	-2.7
カナダ	-3.0	-3.3	-3.4	-3.4	-3.5	-3.7	-3.3	-3.4	-3.3
エマージングアジア									
中国	2.9	2.7	2.8	2.5	2.4	2.4	1.8	2.8	1.8
香港	2.7	3.2	3.3	3.9	4.5	4.3	4.5	3.3	4.5
インド	-1.3	-1.1	-1.1	-1.1	-0.8	-0.5	-0.5	-1.1	-0.5
インドネシア	-2.5	-2.2	-2.1	-2.1	-2.2	-2.1	-1.7	-2.1	-1.7
韓国	7.0	7.6	7.7	7.9	7.9	7.2	7.0	7.7	7.0
マレーシア	2.7	2.5	2.9	2.4	1.9	1.9	2.0	2.9	2.0
フィリピン	4.0	3.3	2.5	2.1	1.1	1.0	0.2	2.5	0.2
シンガポール	20.1	18.9	18.1	17.2	18.8	19.5	19.0	18.1	19.0
台湾	13.2	14.1	14.4	14.0	14.3	13.7	13.3	14.4	13.3
タイ	5.7	7.2	8.1	10.2	11.1	12.1	11.5	8.1	11.4

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.75 - 1.00	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2017/3/15	25	2017/3/15	+25bp
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2017/3/16	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2017/3/9	現状維持
英国	バンク・レート	0.25	緩和: 2007/12/6	5.75	2016/8/4	-25	2017/3/16	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2017/3/7	現状維持
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2017/3/1	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/10/23	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レポ金利	6.25	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/10/4	-25	2017/2/8	現状維持
インドネシア	7日物リバースレポレート	4.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/10/20	-25	2017/3/16	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.25	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/9	-25	2017/2/23	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/7/13	3.00	2016/7/13	-25	2017/3/2	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2017/3/23	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2017/3/29	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(注) インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行